

やぎさわこまごめ 1

やぎさわこまごめ 2

八木沢駒込Ⅰ遺跡・八木沢駒込Ⅱ遺跡

— 市道磯鶏金浜線道路改良工事関係発掘調査報告書 —

2014.3

岩手県宮古市教育委員会

やぎさわこまごめ 1

やぎさわこまごめ 2

八木沢駒込Ⅰ遺跡・八木沢駒込Ⅱ遺跡

—市道磯鶏金浜線道路改良工事関係発掘調査報告書—

2014.3

岩手県宮古市教育委員会

序

本州最東端に位置する岩手県宮古市には、640箇所の遺跡が分布し、縄文時代から現代まで連綿と続く先人たちの営みが数多く残されています。市教育委員会ではこれらの遺跡を後世へ伝え残していくために周知と保護・保存を行っております。なかでも開発工事等により発掘調査された遺跡については記録として保存し、さらに出土した土器や石器などは体験学習や展示に活用しております。

本発掘調査報告書は、市道磯鶏金浜線道路改良工事事業に伴い実施された八木沢駒込Ⅰ遺跡・八木沢駒込Ⅱ遺跡の発掘調査の結果をまとめたものです。八木沢駒込Ⅰ遺跡からは約6,000年前の縄文時代前期前葉の遺物包含層が確認されました。

八木沢駒込Ⅰ遺跡は三陸縦貫道宮古道路関係の発掘調査で、縄文時代晩期の土坑や陥し穴、中世の墓、近世の畑跡などの多種多様な遺構が検出されており、今回の調査によりさらに八木沢地区における先人たちの営みの一端が明らかとなりました。

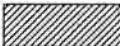

最後になりましたが、調査にあたりまして御指導、御協力いただきました関係各位に深甚なる謝意を表し、厚く御礼申し上げます。

平成26年3月

宮古市教育委員会

教育長 伊藤 晃 二

例 言

1. 本書は市道磯鷄金浜線道路改良工事に伴う八木沢駒込Ⅰ遺跡・八木沢駒込Ⅱ遺跡及び遺跡隣接地の発掘調査報告書である。
2. 本書は「発掘調査概要」と「本編」で構成され、発掘調査概要は調査報告の要旨、本編は通常の報告書である。
3. 調査主体は宮古市教育委員会（教育長 中屋定基（～平成 22 年）、佐々木敏夫（平成 22 年度～25 年度）、伊藤晃二（平成 25 年度～））である。発掘調査及び本書の執筆・編集は文化課の長谷川が担当し、その他文化課担当職員がこれを補佐した。
4. 調査座標については任意で設定し、断面図における水準標高は海拔標高を示す。
5. 土色及び土質の観察は『新版標準土色帖』（小山正忠、竹原秀雄編著 2001 年度版）を基準とし、図版中において土層観察表で表示した。遺物の観察は全て肉眼観察により行い、遺物観察表としてまとめている。
6. 図版中のスクリーン表示は図版中で定めない限り以下の通りである。
遺構図版 ・  石
遺物図版 ・  繊維が混入された土器
7. 遺構図版の縮尺率は 1/50 で、試掘トレンチ図版は 1/100 及び 1/200、全体図は 1/200 とした。また、各図版のスケール上に縮尺率を明示した。遺物図版の縮尺率は、土器類は 1/3、剥片石器は 2/3、その他の石器は 1/3 とした。
8. 本書に収録した調査記録及び出土資料は、宮古市教育委員会で保管している。

目次

序文

例言

目次 図版目次 写真図版目次 表目次

発掘調査概要	1
本編	2
第1章 調査に至る経緯	2
第1節 調査に至る経緯	
第2節 調査体制	
第2章 立地と環境	4
第1節 宮古市の位置と遺跡の環境	
第2節 周辺の遺跡	
第3章 八木沢駒込Ⅰ遺跡	8
第1節 調査方法と調査経過	
第2節 基本層序	
第3節 検出された遺構と遺物	
第4節 試掘調査概要	
第4章 八木沢駒込Ⅱ遺跡及び遺跡隣接地	22
第1節 調査方法と調査経過	
第2節 試掘調査概要	
第5章 まとめ	29
引用・参考文献	30
報告書抄録	44

図版目次

発掘調査概要	1
図1 縄文時代前期の遺物包含層分布範囲	
写真1 縄文時代前期の遺物包含層検出状況(北→)	
写真2 遺物包含層から出土した縄文土器	
本編	2
第1章 調査に至る経緯	
第1図 遺跡位置図	3
第2章 立地と環境	
第2図 地形分類図	5
第3図 地質図	6
第4図 周辺の遺跡分布図	7
第3章 八木沢駒込Ⅰ遺跡	
第5図 本調査・試掘調査位置図	9
第6図 調査区全体図・基本土層図	11
第7図 1号土坑 平面図・断面図	12
第8図 1号土坑 出土遺物	12
第9図 遺物包含層 出土遺物(1)	14
第10図 遺物包含層 出土遺物(2)	15
第11図 遺物包含層 出土遺物(3)	16
第12図 遺物包含層 出土遺物(4)	17
第13図 遺物包含層 出土遺物(5)	18
第14図 遺物包含層 出土石器	19
第15図 試掘調査トレンチ 平面図・断面図	20
第4章 八木沢駒込Ⅱ遺跡及び遺跡隣接地	
第16図 試掘調査トレンチ位置図	23
第17図 試掘調査トレンチ平面図・断面図(1)	24
第18図 試掘調査トレンチ平面図・断面図(2)	25

写真図版目次

1 八木沢駒込Ⅰ遺跡・八木沢駒込Ⅱ遺跡 航空写真(西→)	33
2 八木沢駒込Ⅰ遺跡 遺物包含層 検出状況(北→)	33
3 八木沢駒込Ⅰ遺跡 遺物包含層 完掘状況(北→)	34
4 遺物包含層 完掘状況(北東→)	34
5 遺物包含層 堆積状況(北→)	34
6 遺物包含層 堆積状況(北→)	34
7 遺物包含層・土坑完掘状況(北→)	34
8 1号土坑 完掘状況(南→)	35
9 1号土坑 完掘状況(西→)	35
10 1号土坑 堆積状況(西→)	35
11 1号土坑 縄文土器出土状況(西→)	35
12 八木沢駒込Ⅰ遺跡A・Bトレンチ(南→)	35
13 八木沢駒込Ⅰ遺跡C・Dトレンチ(北→)	35
14 八木沢駒込Ⅰ遺跡A・Bトレンチ(南→)	35
15 八木沢駒込Ⅰ遺跡Dトレンチ(南東→)	35
16 八木沢駒込Ⅰ遺跡Cトレンチ(南→)	36

17 八木沢駒込Ⅰ遺跡Cトレンチ(南東→)	36
18 遺跡隣接地 Eトレンチ(南→)	36
19 遺跡隣接地 Eトレンチ(南→)	36
20 八木沢駒込Ⅱ遺跡 Fトレンチ(北→)	36
21 八木沢駒込Ⅱ遺跡 Fトレンチ(南→)	36
22 遺跡隣接地 Gトレンチ(東→)	36
23 遺跡隣接地 Gトレンチ(東→)	36
24 遺跡隣接地 Hトレンチ(南→)	37
25 遺跡隣接地 Hトレンチ(南→)	37
26 遺跡隣接地 Iトレンチ(南→)	37
27 遺跡隣接地 Iトレンチ(北→)	37
28 遺跡隣接地 Jトレンチ(東→)	37
29 遺跡隣接地 Jトレンチ(西→)	37
30 遺跡隣接地 Kトレンチ(西→)	37
31 遺跡隣接地 Kトレンチ(西→)	37
32 1号土坑・遺物包含層 縄文土器(1)	38
33 遺物包含層 縄文土器(2)	38
34 遺物包含層 縄文土器(3)	39
35 遺物包含層 縄文土器(4)	39
36 遺物包含層 縄文土器(5)	40
37 遺物包含層 縄文土器(6)	40
38 遺物包含層 縄文土器(7)	41
39 遺物包含層 縄文土器(8)	41
40 遺物包含層 縄文土器(9)	42
41 遺物包含層 縄文土器(10)	42
42 遺物包含層 出土石器	43

表目次

第1表 八木沢駒込Ⅰ遺跡・八木沢駒込Ⅱ遺跡 調査履歴	6
第2表 八木沢駒込Ⅰ遺跡 土器観察表(1)	27
第3表 八木沢駒込Ⅰ遺跡 土器観察表(2)	28
第4表 八木沢駒込Ⅰ遺跡 石器観察表	28

発掘調査概要

八木沢駒込Ⅰ遺跡・八木沢駒込Ⅱ遺跡は宮古市八木沢第8地割に所在し、東流する八木沢川により形成された緩斜面上に立地しています。発掘調査は市道磯鶏金浜線の道路改良工事に伴い実施されたもので、平成19・20年度に八木沢駒込Ⅰ遺跡・八木沢駒込Ⅱ遺跡及び遺跡隣接地において試掘調査（どのような遺構・遺物があるのかを調べる調査）、平成21年度には八木沢駒込Ⅰ遺跡において本調査（遺構・遺物の精査を行う本格的な調査）が行われました。

八木沢駒込Ⅰ遺跡では本調査の結果、縄文時代前期の遺物包含層が検出され縄文土器が多数出土しました。遺物包含層とは、縄文土器や石器などが含まれている土の層のことで、今回の調査では縄文時代前期前葉（約6,000年前）の土器が多数を占めています。

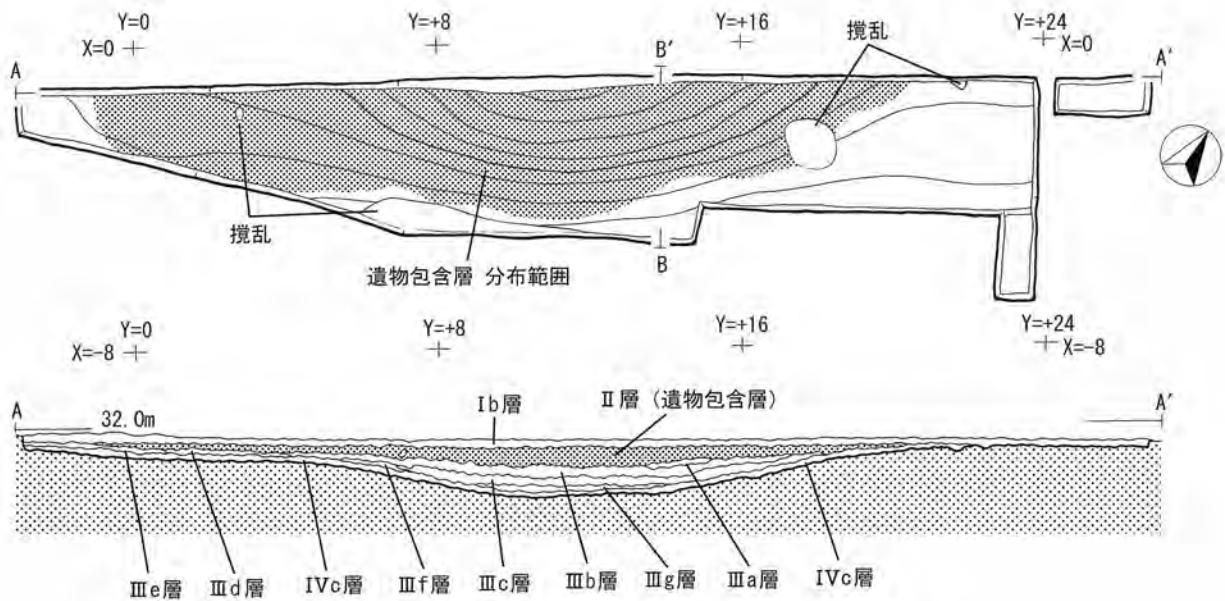


図1 縄文時代前期の遺物包含層分布範囲



写真1 縄文時代前期の遺物包含層検出状況（北→）



写真2 遺物包含層から出土した縄文土器

本 編

第 1 章 調査に至る経緯

第 1 節 調査に至る経緯

八木沢駒込Ⅰ遺跡・八木沢駒込Ⅱ遺跡は、岩手県宮古市八木沢第8地割に所在し、現況は畑地及び山林・荒蕪地である。市道磯鶏金浜線の道路改良工事に伴い遺跡の有無についての照会が宮古市建設課よりあり、それを受け市教育委員会文化課は平成18年6月27日に分布調査を実施し、周知の遺跡範囲内3ヶ所及び隣接地3ヶ所の計6ヶ所において試掘調査が必要である旨回答している。さらに平成19年10月25日には大谷地踏切より南側の工事区間においても分布調査を実施し、遺跡隣接地3ヶ所において試掘調査が必要であると回答している。

平成19年10月19日付けで宮古市建設課より文化財保護法第94条の規定による発掘届出が提出され、平成19年10月22日付け教文第206号で岩手県教育委員会に進達している。それを受け岩手県教育委員会では平成19年10月25日付け教生第22-130号(八木沢駒込Ⅰ遺跡)・教生第22-131号(八木沢駒込Ⅱ遺跡)で「埋蔵文化財の発掘について」の通知があり、市教育委員会では平成19年11月7日付け教文第225号で宮古市建設課に伝達している。

八木沢駒込Ⅰ遺跡・八木沢駒込Ⅱ遺跡の試掘調査は、平成19年11月1日から12月12日まで実施し、八木沢駒込Ⅰ遺跡内の1ヶ所において、遺物包含層が検出されたため本調査が必要である旨平成20年3月28日付け教文第1091号の試掘調査終了報告で回答している。

大谷地踏切より南の工事区間についての遺跡隣接地試掘調査は、平成20年11月6日から11月19日まで実施し、平成21年3月26日付け教文第396号の試掘調査終了報告で遺構・遺物は確認されず、工事に支障なしとして回答している。

八木沢駒込Ⅰ遺跡の本調査については、平成21年9月3日付けで宮古市建設課より文化財保護法第94条の規定による発掘届出が提出され、平成21年9月14日付け教文第237号で岩手県教育委員会に進達している。それを受け岩手県教育委員会では平成21年9月24日付け教生第4-104号で「埋蔵文化財の発掘について」の通知があり、市教育委員会では平成21年10月5日付け教文第273号で宮古市建設課に伝達している。

本調査は平成21年10月16日から11月19日まで実施し、縄文時代前期の遺物包含層と土坑1基が検出された。調査整理作業は平成22年度～25年度まで実施している。

第 2 節 調査体制

<平成19～21年度 試掘調査・本調査、平成22～25年度 整理作業>

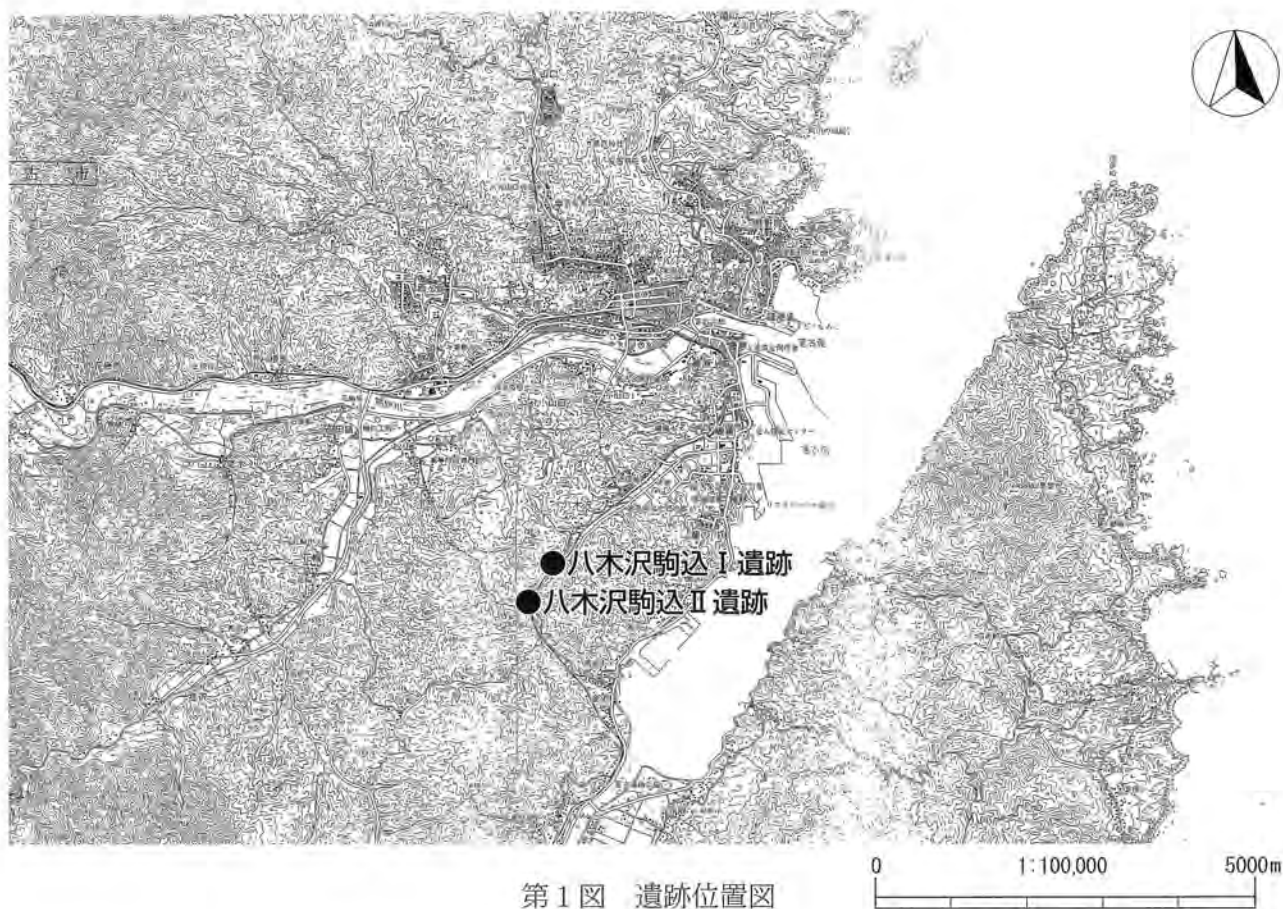
調査主体 宮古市教育委員会 教育長 中屋 定基 (～平成22年度)
佐々木敏夫 (平成22～25年度)
伊藤 晃二 (平成25年度～)

調査総括 元田秀一 宮古市教育委員会文化課長 (平成19・20年度)
上屋敷正明 // 文化課長 (平成21年度)

	鳥居 茂	宮古市教育委員会文化課長（平成 22・23 年度）
	竹下將男	// 文化課長（平成 23 年度～）
調査員	竹下將男	// 文化課主査（平成 19 年度）
		// 文化課副主幹（平成 20～23 年度）
	高橋憲太郎	// 文化課主査（平成 19～22 年度）
		// 文化課副主幹（平成 23 年度～）
	鎌田祐二	// 文化課主任文化財調査員（平成 19 年度）
		// 文化課主査（平成 20～23 年度）
		// 文化課副主幹（平成 24 年度～）
	布谷義彦	// 文化課主任文化財調査員
	加納由美	// 文化課主任文化財調査員
	安原 誠	// 文化課主任文化財調査員
	長谷川真	// 文化課主任文化財調査員（調査・報告書担当）
	阿部 豊	// 文化課埋蔵文化財発掘調査員
	江口邦泰	// 文化課埋蔵文化財発掘調査員

<発掘調査作業員・整理作業員>

大沢裕明 大下義文 大森修 越田真理子 小林功行 小松義一 坂本晃 佐々木隆 竹内友洋
 鳥居義文 三浦功 村松光子 山根保行 山屋秋英



第2章 立地と環境

第1節 宮古市の位置と遺跡の環境

岩手県宮古市は三陸沿岸のほぼ中央に位置し、西は盛岡市、北は岩泉町、南は花巻市・遠野市・山田町と隣接し、東は太平洋に面している。市域の総面積は約 1,260km²、人口約 58,000 人の漁業と観光の都市である。

市域の西側は標高 1,917 m の早池峰山を最高峰とする北上山地の山々が連なる一方、東側は太平洋を望み、特に北東方向に突き出す重茂半島の鮭ヶ崎は本州の最東端となっている。宮古市周辺の海岸は国指定名勝「浄土ヶ浜」や国指定天然記念物「崎山の蝟燭岩」「崎山の潮吹き穴」などの岩手県随一の景勝地であり、また西側の山間部は早池峰国定公園に指定されており、自然豊かな景観をみることができる。

八木沢駒込Ⅰ遺跡・八木沢駒込Ⅱ遺跡は岩手県宮古市八木沢第8地割地内に所在し、宮古市中心部を流れる閉伊川の南に広がる八木沢丘陵に位置する。八木沢丘陵は宮古湾へ東流する八木沢川によって樹枝状に尾根が形成されており、本遺跡は八木沢川周辺の尾根上及び山裾の緩斜面に立地している。発掘調査した地点の標高は八木沢駒込Ⅰ遺跡で約 28.4 m～31.8 m、八木沢駒込Ⅱ遺跡で約 35 m、遺跡隣接地として調査した尾根上の地点では約 60 m である。なお、遺跡の現況は畑地及び山林である。

第2節 周辺の遺跡

八木沢駒込Ⅰ遺跡・八木沢駒込Ⅱ遺跡の周辺には、八木沢野来遺跡・八木沢Ⅱ遺跡・八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡・八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡・八木沢古館などが分布し、丘陵緩斜面や尾根上に立地している。周辺で発掘調査された遺跡としては市道ラントノ沢線道路改良工事関係で八木沢古館・八木沢中田遺跡など、また三陸縦貫道宮古道路関係で八木沢野来遺跡、八木沢Ⅱ遺跡、八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡、八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡など多くの遺跡が挙げられる。

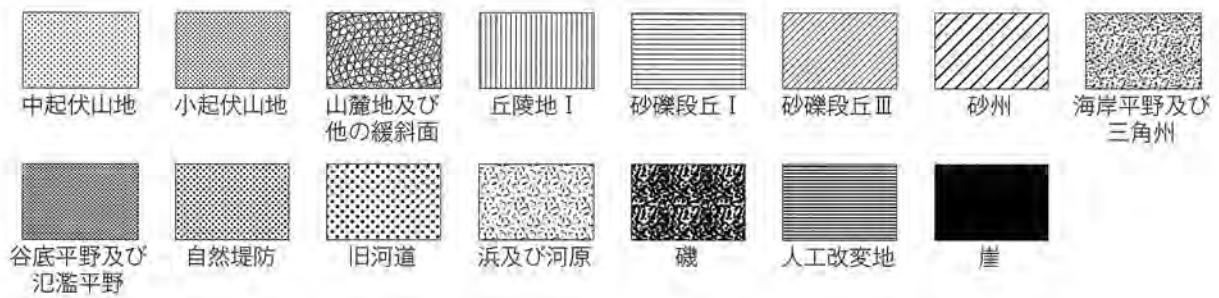
第1表のとおり八木沢駒込Ⅰ遺跡は、平成7年に市道ラントノ沢線道路改良工事に伴い宮古市教委で第1次調査を行い、土坑4基が検出され円形石製品などが出土している。平成8年の第2次調査では遺構は確認されず、平成15年の第3次調査では土坑2基、溝跡が検出されている。また、平成19年には三陸縦貫道宮古道路関係で岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによって調査され、縄文時代晩期の土坑や陥し穴、中世の墓などが検出されている。さらに平成20年の調査では近世の畑跡が検出されている。

八木沢駒込Ⅱ遺跡は、平成19年の岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによる調査で縄文時代中期の竪穴住居跡2棟、陥し穴6基が検出され、平成20年の調査では土坑1基が確認されている。また、表土中からではあるが、12世紀代の銅鏡と銅製の飾金具が出土している。

八木沢駒込Ⅰ遺跡・八木沢駒込Ⅱ遺跡を含めその周辺では、三陸縦貫道宮古道路関係の発掘調査によって数多くの遺跡が調査され、次第にその様相が明らかになってきている。そのため縄文時代から近世に



0 1 : 50,000 2000m



第2図 地形分類図

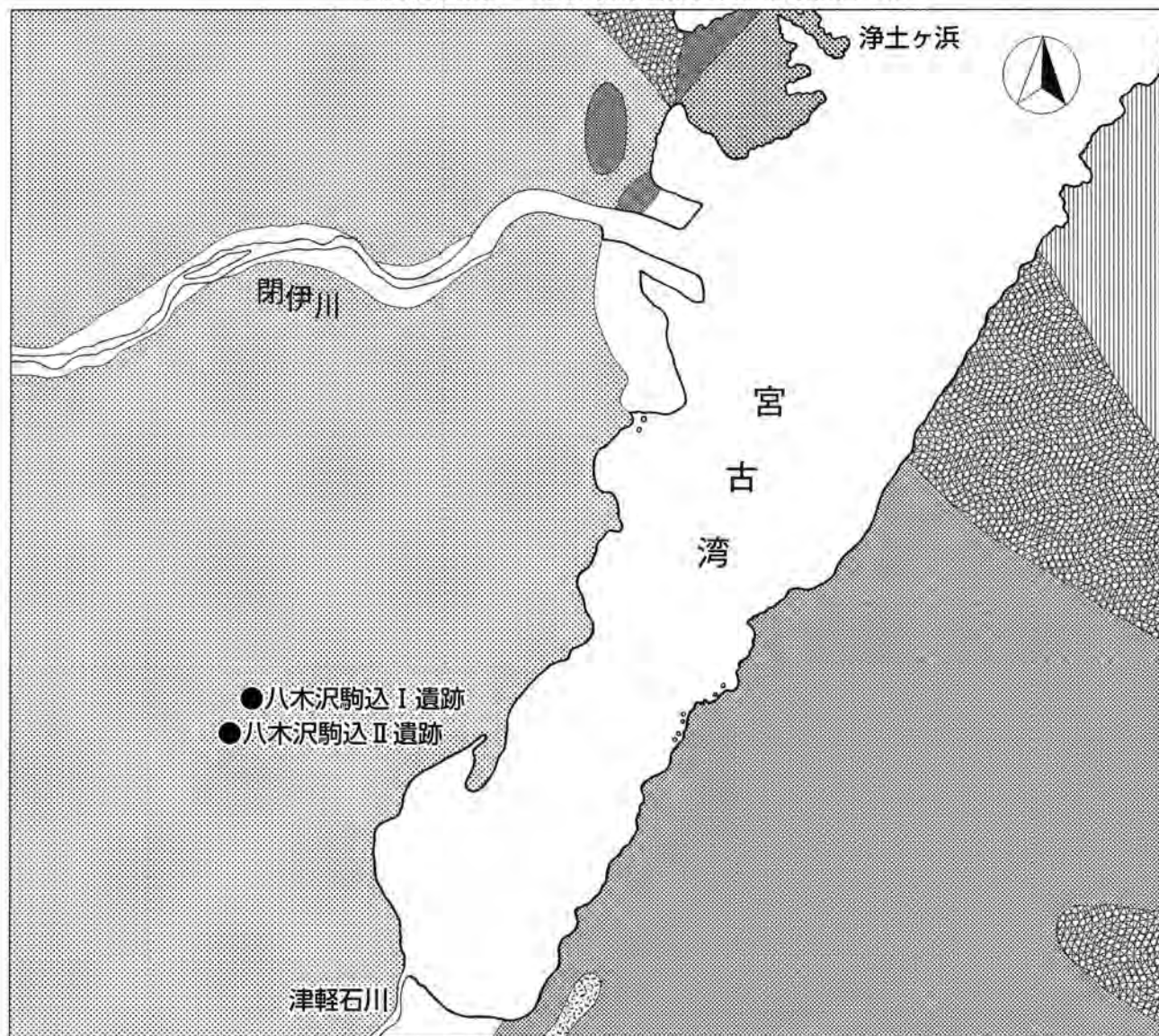
至るまで、各時代の先人たちの営みをみることができる地区といえる。

ちなみに、遺跡名にもある「駒込」という地名から馬に関係する地区でもあったことがうかがえる。

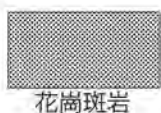
第1表 八木沢駒込Ⅰ遺跡・八木沢駒込Ⅱ遺跡 調査履歴

No	遺跡名	調査年	調査主体	調査原因	調査面積 (㎡)	検出された遺構・遺物
1	八木沢駒込Ⅰ遺跡	平成7年(第1次)	宮古市教委	市道ラントノ沢線道路改良工事	280	土坑4基、円形石製品、寛永通宝
2	八木沢駒込Ⅰ遺跡	平成8年(第2次)	宮古市教委	市道ラントノ沢線道路改良工事	280	—
3	八木沢駒込Ⅰ遺跡	平成15年(第3次)	宮古市教委	市道ラントノ沢線道路改良工事	177	土坑2基、溝跡、円形石製品
4	八木沢駒込Ⅰ遺跡	平成19年(第1次)	岩埋文センター(※)	三陸縦貫自動車道宮古道路	5,900	縄文時代晩期の土坑、陥し穴1基、中世の墓
5	八木沢駒込Ⅰ遺跡	平成20年(第2次)	岩埋文センター(※)	三陸縦貫自動車道宮古道路	1,600	近世の畑跡
6	八木沢駒込Ⅱ遺跡	平成19年(第1次)	岩埋文センター(※)	三陸縦貫自動車道宮古道路	1,900	縄文時代中期の竪穴住居跡2棟、陥し穴6基
7	八木沢駒込Ⅱ遺跡	平成20年(第2次)	岩埋文センター(※)	三陸縦貫自動車道宮古道路	2,800	土坑1基、銅鏡、飾金具
8	八木沢駒込Ⅱ遺跡	平成21年(第3次)	岩埋文センター(※)	三陸縦貫自動車道宮古道路	3,600	土坑1基

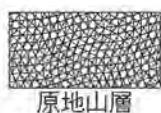
※岩埋文センター…岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター



花崗岩



花崗斑岩



原地山層



閉伊崎噴出岩類



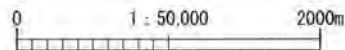
宮古層群



浄土ヶ浜流紋岩



中位段堆積物



第3図 地質図



番号	遺跡名	主な時代	番号	遺跡名	主な時代
1	八木沢駒込Ⅰ遺跡	縄文時代・古代	9	磯鶏蝦夷森貝塚	縄文時代・古代
2	八木沢駒込Ⅱ遺跡	縄文時代	10	上村貝塚	縄文時代～平安時代
3	八木沢野来遺跡	縄文時代	11	八木沢古館	中世
4	賽の神遺跡	縄文時代	12	八木沢Ⅱ遺跡	縄文時代
5	下大谷地Ⅰ遺跡	縄文時代	13	八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡	縄文時代
6	金浜館跡	縄文時代・中世	14	八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡	古代
7	島田Ⅱ遺跡	古代	15	木戸井内Ⅳ遺跡	縄文時代・古代
8	磯鶏館山遺跡	縄文時代～中世	16	隠里Ⅷ遺跡	縄文時代

第4図 周辺の遺跡分布図

第3章 八木沢駒込I遺跡

第1節 調査方法と調査経過

実測・写真撮影・土層注記

遺構平面図及び遺構断面図の縮尺は1/20を基本とし、レベルは市道磯鷄金浜線道路改良工事の基準杭をもとに調査区に基準高を設定した。写真撮影は35mmの一眼レフカメラを使用し、フィルムはモノクロ、カラーリバーサル、カラーフィルムの3種類を用いた。さらに参考としてデジタルカメラも併用した。土層注記は「新版標準土色帖」を用いて肉眼による観察を行った。観察項目は色調・土性・しまり・粘性・混入物などである。

整理の方法

調査終了後、遺構実測図及び全体図は、平面図と断面図相互の整合性についてチェックし、第2原図の作成を行い、さらにトレースを行った。撮影した写真は現場で記録した写真台帳を基に白黒フィルムはネガアルバムに、カラーリバーサルフィルムはスライドファイルに収納し、それぞれ写真1枚ごとに番号を付した。

出土した遺物は現場での取上げ後、埋蔵文化財調査室で水洗いを行い、袋ごとに番号を付した。それを基に遺物台帳を作成し、整理作業の基本台帳とした。袋内における遺物の接合、ホワイトカラーによる注記を経て、さらに遺構ごとに接合を行った。

本報告書に掲載されている遺物は、整理作業の中で設定した基準に基づき選別したものである。その選別の基準は以下のとおりである。

a. 土器類

土器の総数は破片数1,280点を数え、その中で①口縁部や底部が良好に残存しているもの、②概ね破片の大きさが5cm以上のもの、③時期決定できる特徴的な文様をもつものを抽出し、図化した。図化した遺物は計106点である。

b. 石器類

石器類は16点、重量68.1g出土し、全点について図化した。

調査経過

<平成19年度 試掘調査>

11月1日 調査前の現況を写真撮影し、A・Bトレンチを設定した。

11月2日 C・Dトレンチを設定した。A・Bトレンチの掘り下げを開始した。

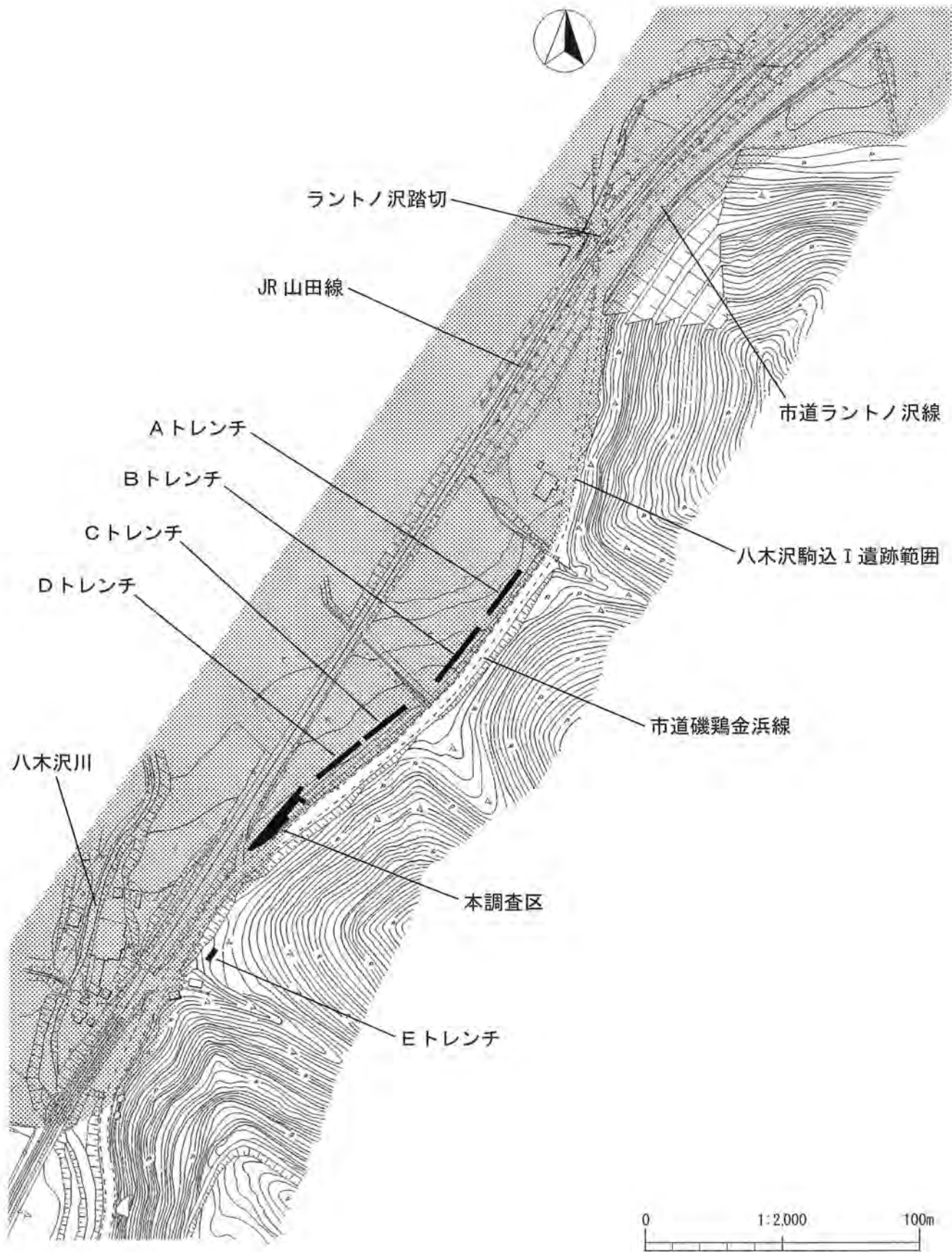
11月27日 A・B・Dトレンチの地山面検出状況写真を撮影した。

11月30日 A・Bトレンチの平面図を作成した。

12月4日 C・Dトレンチの断面図を作成した。

12月6日 試掘トレンチの埋め戻しを開始した。

12月12日 試掘トレンチの埋め戻しを終了した。



第5図 本調査・試掘調査位置図

<平成 21 年度 本調査>

- 10月16日 平成19年度の試掘調査時の埋め戻し土を取り除く。
- 10月20日 グリッド杭・調査区ベルトを設定し、遺物包含層を検出した。
- 10月21日 遺物包含層の検出状況写真を撮影し、検出状況平面図を作成した。遺物包含層の掘り下げを開始した。
- 11月2日 遺物包含層の掘り下げを終了し、地形図を作成した。
- 11月3日 遺物包含層下層より1号土坑を検出し、精査を開始した。
- 11月5日 1号土坑の平面図を作成した。調査区内の地山面を検出した。
- 11月6日 調査区内ベルト断面図を作成した。
- 11月12日 地山面検出状況写真を撮影し、地形図を作成した。
- 11月16日 調査区内の埋め戻しを開始した。
- 11月19日 機材を撤収し、本調査を終了した。

第2節 基本層序

調査区内堆積土の土層観察は、中央部南北ベルト及び北西壁東西ベルトにおいて実施した。

- I a層～I c層 : 盛土層で、調査区全域に堆積している。表土層はみられなかった。現代において平坦面を作り出すために掘削された後、盛土されたものと推測される。
- II層 : 縄文時代前期の遺物包含層である。黒色を呈する埴壤土で、調査区中央部の北側に半円状に検出されている。3cm大の小礫が含まれる。
- III a層～III g層 : 黒色及び黒褐色を呈する埴壤土で、遺物包含層の下層に堆積している。硬質でしまりがあり、1mm～2mm大の小礫が含まれる。III g層はやや砂質を呈する。遺物の出土はなく、堆積状況からも自然堆積と考えられる。
- IV a層～IV c層 : 地山漸移層で、調査区全域に堆積している。黒褐色埴壤土及び褐色砂壤土で、部分的に地山が塊状に混入している。

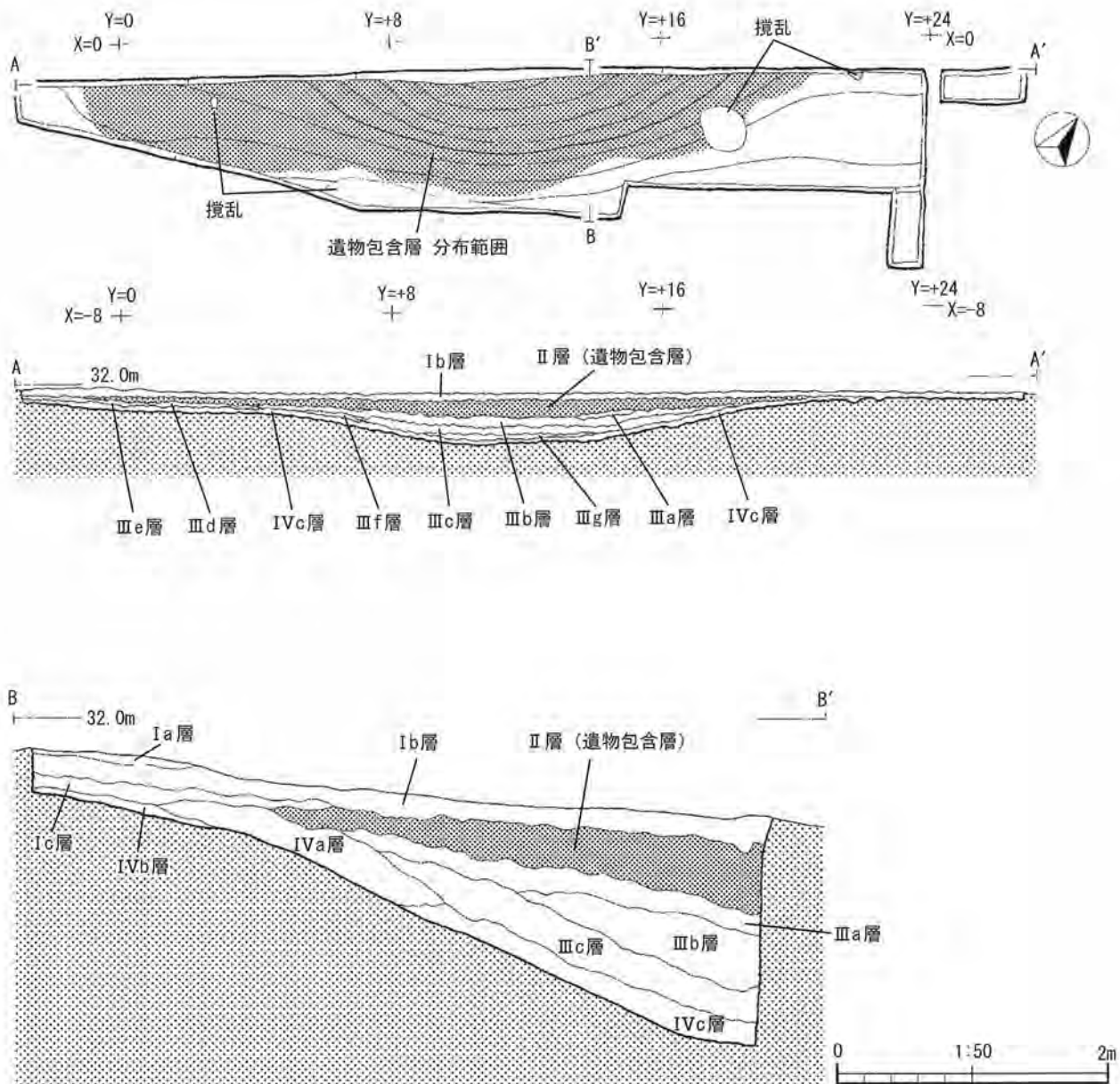
第3節 検出された遺構と遺物

1号土坑 (第7・8図、写真図版8～11・32)

1号土坑は調査区中央部で検出され、**遺構検出面**は遺物包含層下層のIII a層上面で、遺物包含層を掘り下げた後に確認している。他の遺構との重複はみられない。

平面形は南北に長軸をもつ楕円形を呈し、**規模**は長径1.45m、短径0.85m、検出面から底面までの深さは0.55mを測る。底面は北側がやや低くなっている。

堆積土は4層に大別され、さらに2 a層・2 b層に細別される。1層は黒色を呈する埴壤土で、遺物の出土状況や土質、土色から1号土坑の上層に堆積している縄文時代前期の遺物包含層と同様の土層であると考えられる。そのため、土坑が完全に埋まらない段階で、土坑を埋めるように遺物包含層が堆積していったと推測される。2 a層・2 b層は黒色を呈する埴壤土で、3層・4層は黒褐色を呈す



基本土層 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
盛土層 I a	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR1.7/1 黒色埴壤土 5%塊状	硬質、粘性あり 試掘調査時の埋土
盛土層 I b	10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR2/3 黒褐色砂壤土 20%塊状	硬質、粘性あり
盛土層 I c	10YR2/3 黒褐色砂壤土	10YR3/2 黒褐色砂壤土 10%塊状	硬質、粘性あり
遺物包含層 II	10YR1.7/1 黒色埴壤土	10YR2/3 黒褐色埴壤土 1%塊状	硬質、粘性あり 3 cm大の小礫含まれる
自然堆積層 III a	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土 1%塊状	硬質、粘性あり
自然堆積層 III b	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土 10%塊状	硬質、粘性あり 2 mm大の白色粒多量含まれる
自然堆積層 III c	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR3/1 黒褐色埴壤土 5%塊状	硬質、粘性あり 2 mm大の白色粒多量含まれる
自然堆積層 III d	10YR2/3 黒褐色埴壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土 20%塊状	硬質、粘性あり 2 mm大の小礫少量含まれる
自然堆積層 III e	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土 5%塊状	硬質、粘性あり 2 mm大の小礫少量含まれる
自然堆積層 III f	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR2/3 黒褐色砂壤土 20%塊状	硬質、粘性あり 1 mm大の小礫少量含まれる
自然堆積層 III g	10YR2/1 黒色シルト質埴壤土	10YR2/3 黒褐色シルト質埴壤土 10%塊状	硬質、粘性あり
地山漸移層 IV a	10YR2/3 黒褐色埴壤土	10YR4/4 褐色砂壤土 10%塊状	硬質、粘性あり
地山漸移層 IV b	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR6/6 明黄褐色砂壤土 10%塊状	硬質、粘性あり
地山漸移層 IV c	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土 20%塊状	硬質、粘性あり

第6図 調査区全体図・基本土層図

る埴壤土である。3層には1cm大の地山塊が混入している。

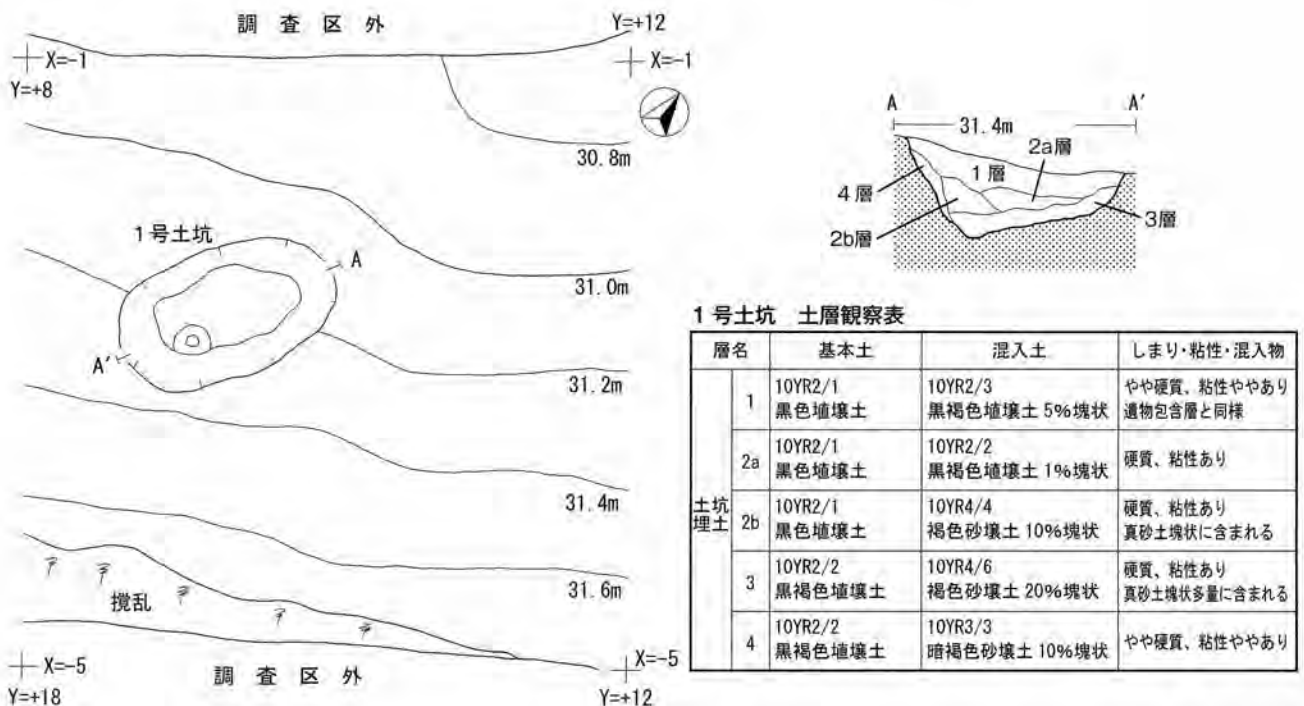
出土した遺物は縄文土器の破片で、2点を図示した。第8図1は胴部破片で、外面は磨滅しているがRL単節斜縄文が施文されている。第8図2は胴部破片で同じくRL単節斜縄文が施文されている。ともに胎土に繊維が含まれている。

土坑の所属時期については、前述の堆積状況や出土遺物から縄文時代前期、もしくはそれ以前に属すると考えられる。

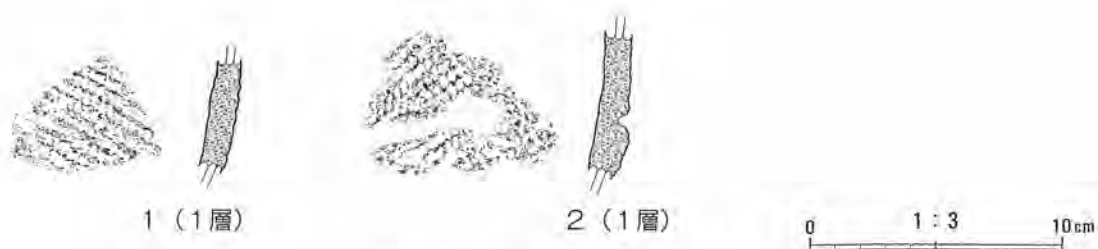
遺物包含層 (第6・9～14図、写真図版2～7・32～42)

遺物包含層は、北東-南西方向に細長い調査区の中央部分の北側に半円状に検出されている。そのため、北西向きに広がっていく谷状地形に堆積した包含層と考えられる。

検出された**分布範囲**は東西21.7m、南北3.4mである。深さは最大で1.4mで、直上には盛土層であるIa層～Ic層が堆積しており、畑として利用する際の掘削により遺物包含層の上部は削られているものと考えられ、本来はさらに層としての厚みがあった可能性がある。



第7図 1号土坑 平面図・断面図



第8図 1号土坑 出土遺物

堆積土は単層（Ⅱ層）で、基本土は黒色を呈する埴壤土で、黒褐色を呈する埴壤土が1%塊状に混入している。黒色を呈し、3cm大の小礫が含まれる。谷状の地形に堆積しているため、北西方向に向かって層厚が厚いという特徴がある。

遺物は縄文土器・石器が出土し、縄文土器 104 点、石器 16 点を図示した。出土層は遺物包含層中（Ⅱ層）と検出面の2つに分けられる。

第9図1～15は口縁部破片で、全ての胎土に繊維が含まれている。第9図1は外面にR L単節斜縄文が施文され、口縁部上端には不整撚糸文が施文されている。大木2 a式の特徴を有している。第9図2は外面磨滅しており詳細は不明であるが羽状縄文である。第9図3～15は外面L R単節斜縄文及び組縄縄文（第9図8・9・11・13～15）で口縁の端部まで施文されている。第9図11・14・15は文様や形態などから同一個体の可能性がある。第9図10の外面には炭化物が付着している。

第9図16～19、第10図20～46、第11図47～62、第12図63～74は胴部破片で、外面に縄文が施文されているものである。組縄縄文（第10図26～28・32・34・35・39・40・44・45、第11図48・50・51・55・56・58・60、第12図63）R L単節斜縄文（第10図33・36）、L R単節斜縄文（第9図17～19、第10図21・23～25・29・31・37・38・40・41・43・46、第11図47・49・52・54・57・59・61・62、第12図64～67・69～74）、複節縄文（第10図20・22・30・42、第11図53）羽状縄文（第9図16）が施文され、第12図68は外面磨滅のため文様は不明である。全ての胎土には繊維が含まれている。第11図59・61は文様・胎土などから同一個体の可能性がある。第12図64の外面には補修孔が確認されるが、貫通はしていない。

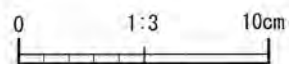
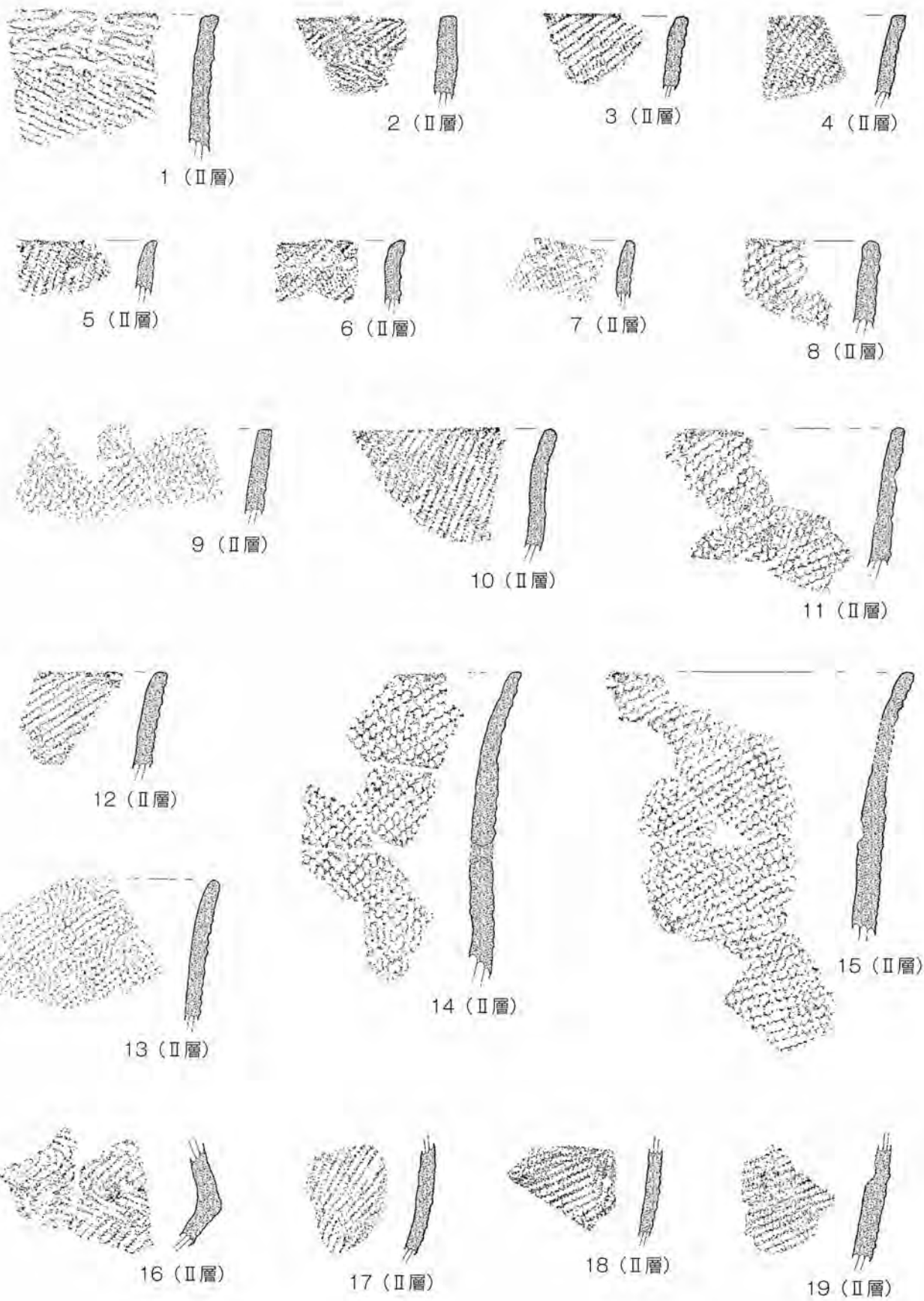
第12図75・76は底部破片で、乳頭状の尖底の形態を有する。ともにL R単節斜縄文が先端部分まで施文されている。

第12図77～79、第13図80～104は遺物包含層検出面で出土している。全ての胎土に繊維が含まれている。第12図77～79は口縁部破片で、外面にはL R単節斜縄文（第12図77・78）、組縄縄文（第12図79）が口縁端部まで施文されている。第12図78には補修孔がみられる。また第12図79の外面には炭化物が付着している。

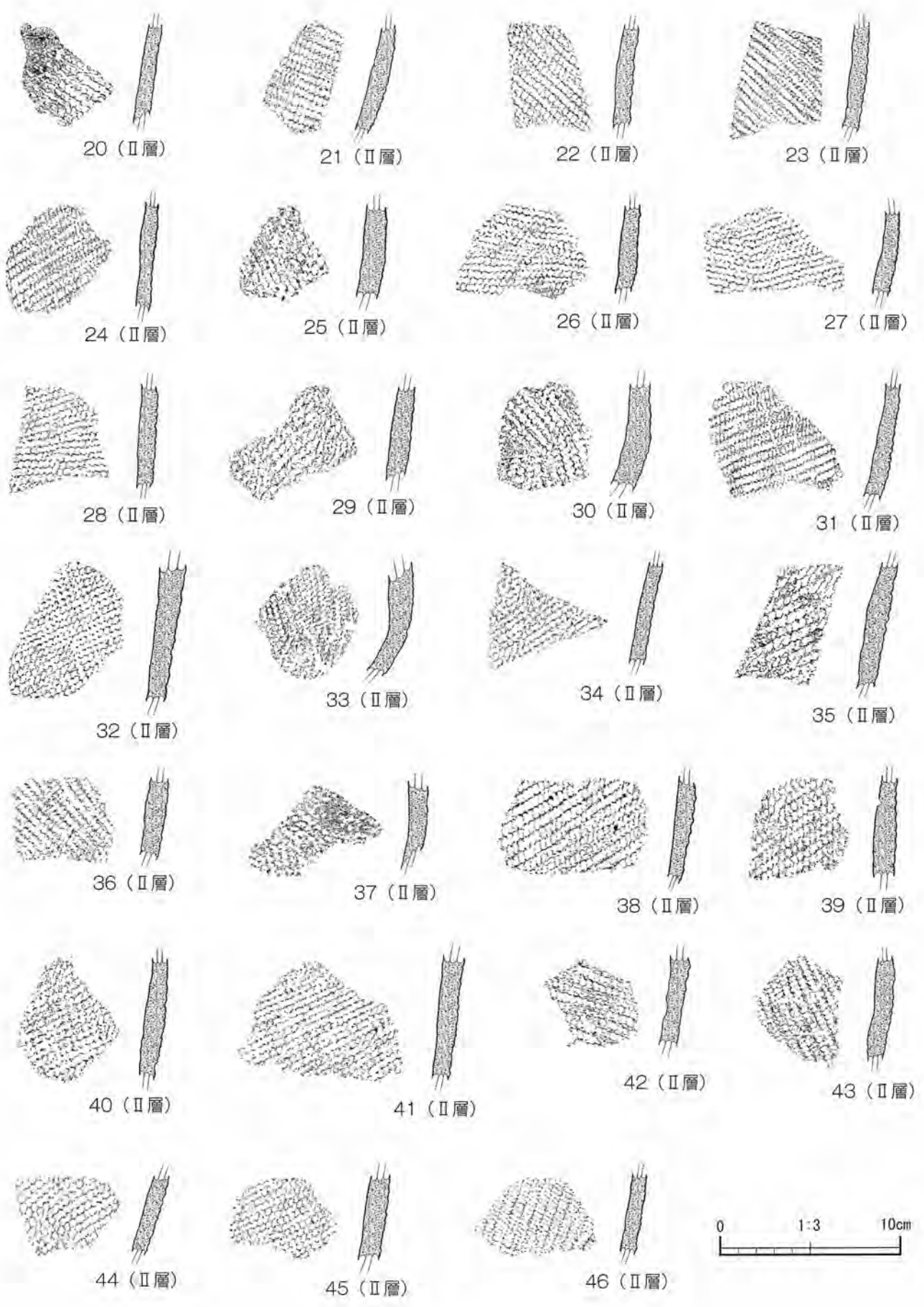
第13図80～104は胴部破片で、組縄縄文（第13図84・90・92・97・98）L R単節斜縄文（第13図80・83・87・89・93～96・100・102～104）、R L単節斜縄文（第13図81・82・85・86・88・91・99・101）、複節縄文（第13図85）が施文されている。

第14図1～16は石器である。第14図1は遺物包含層検出面、第14図2～9・11～16は遺物包含層中、第14図10はI b層からの出土である。

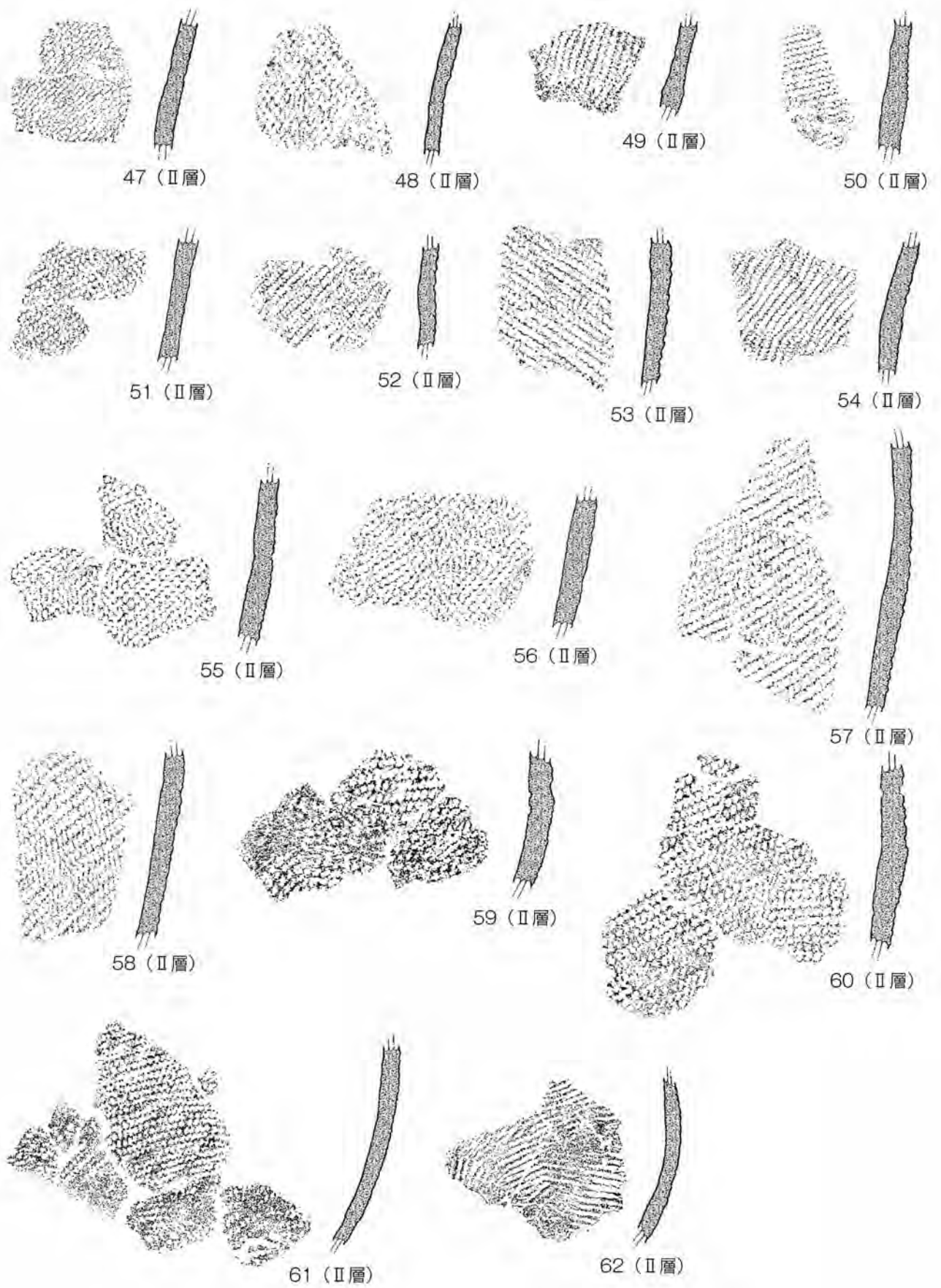
第14図1・2は平基無茎の石鏃で、第14図2は両面に剥離がみられる。第14図3～7は凹基無茎の石鏃で、両面に調整剥離が施されているが、第14図3・4・6には一次剥離面が残っている。第14図8～13は石匙で、第14図8～12は縦型、第14図13は横型である。腹面には一次剥離面が大きく残るが、第14図10は腹面縁辺部にも細かい調整剥離が施されている。第14図14・15は搔器である。不整な楕円形・長方形を呈し、部分的に調整剥離が施され刃部を作り出している。第14図16は小型の磨製石斧である。両面とも表面に剥離がみられる。



第9図 遺物包含層 出土遺物(1)

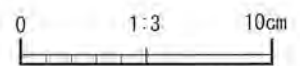
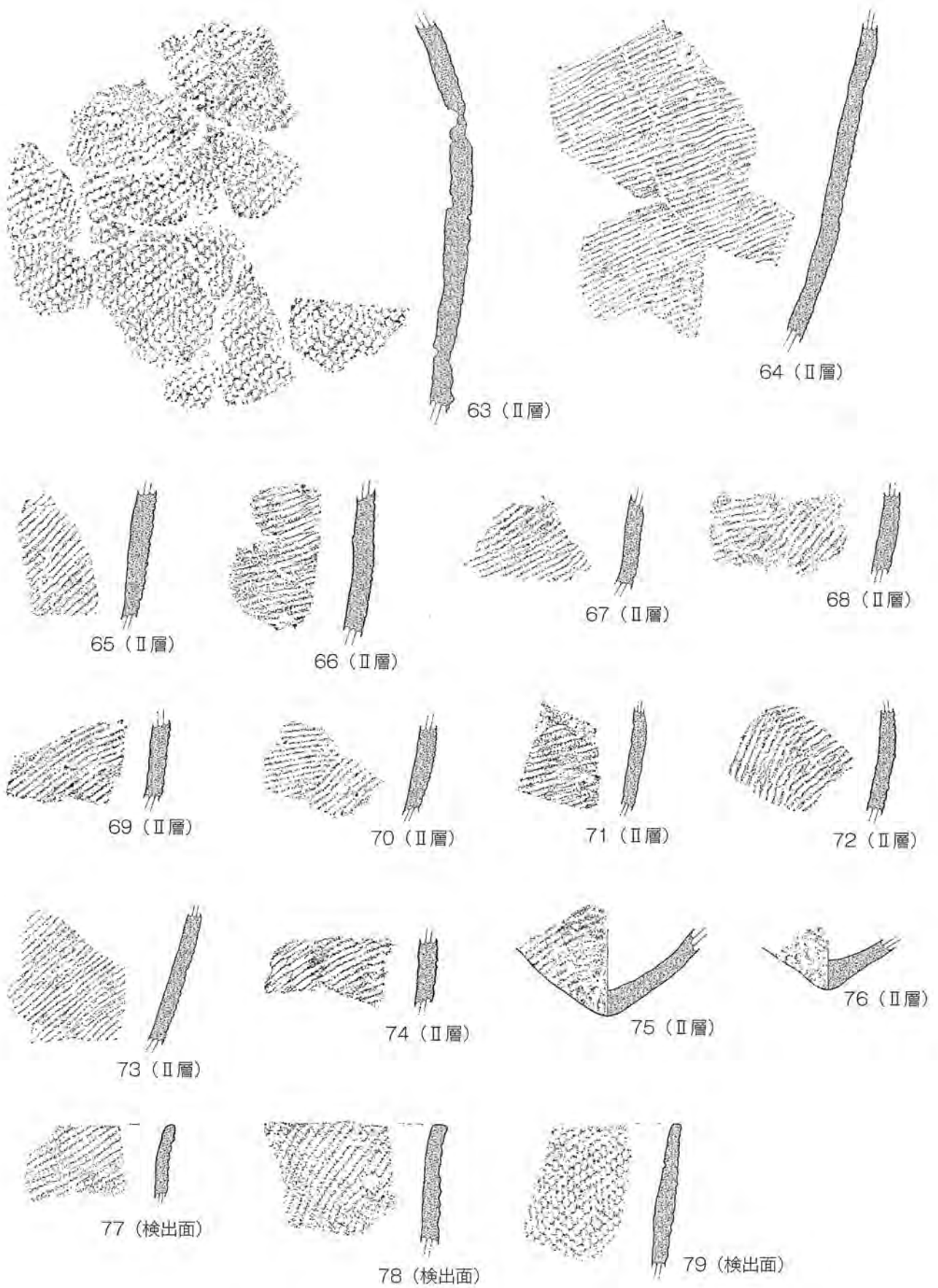


第10図 遺物包含層 出土遺物(2)

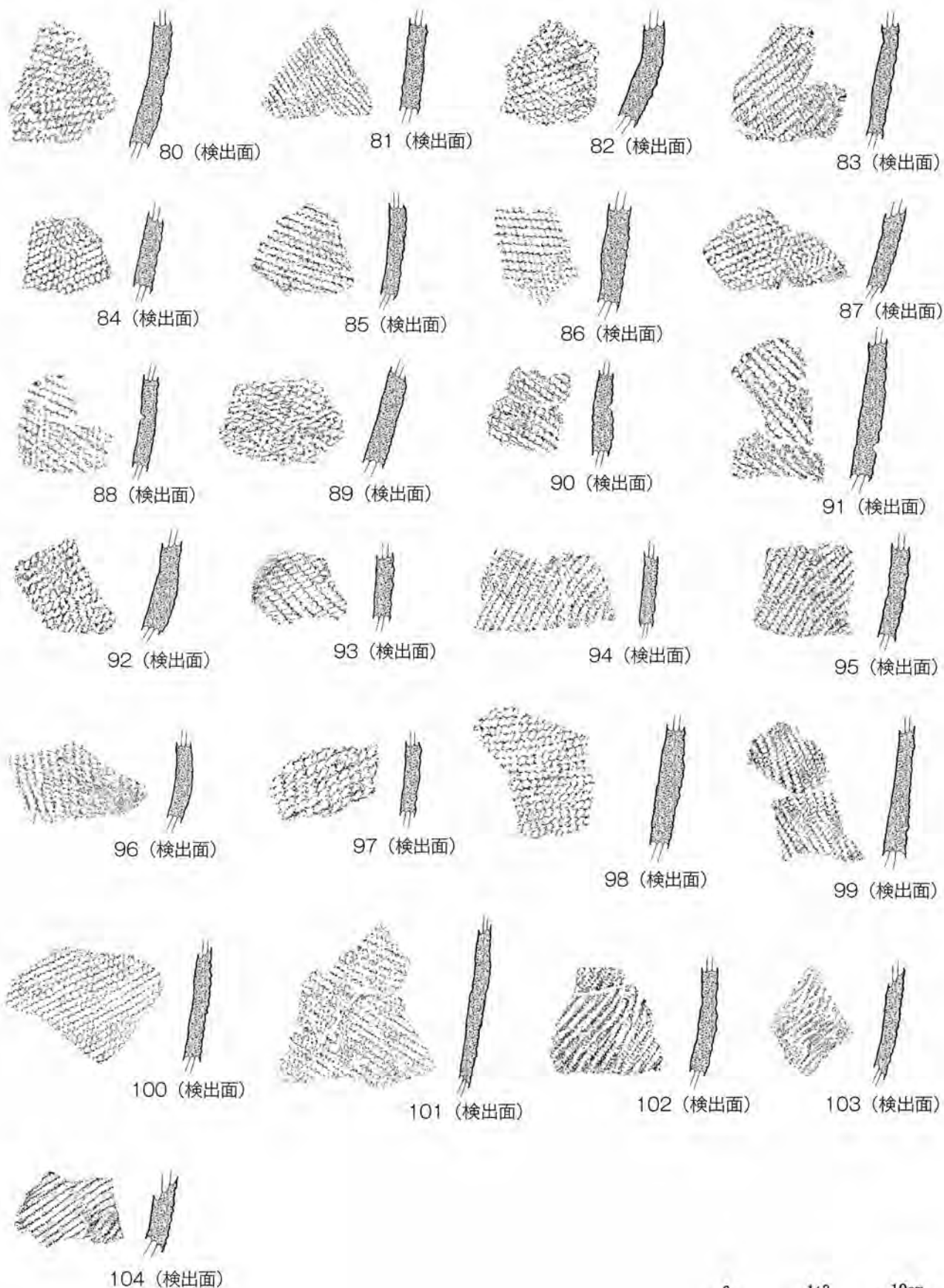


0 1:3 10cm

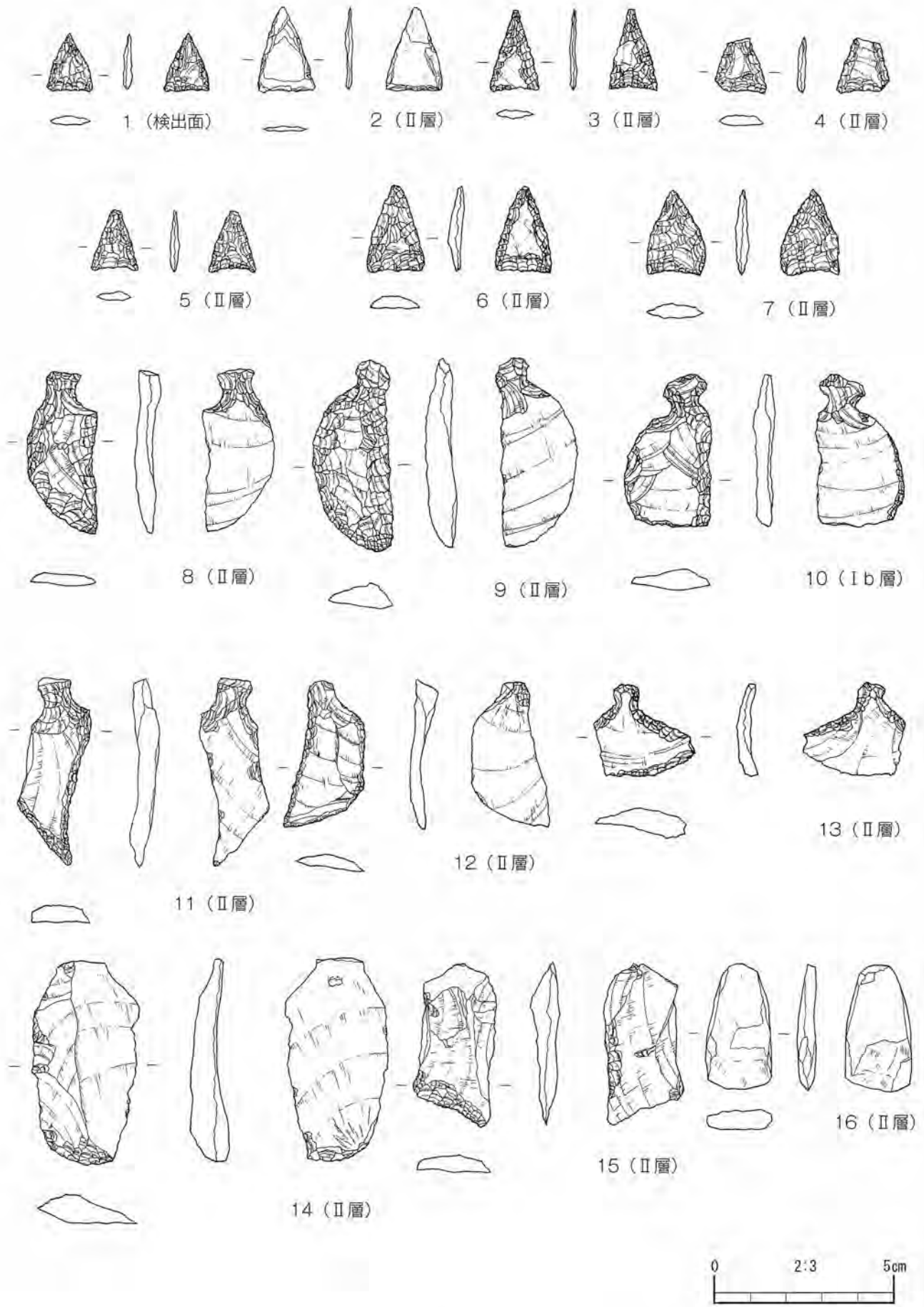
第 11 図 遺物包含層 出土遺物(3)



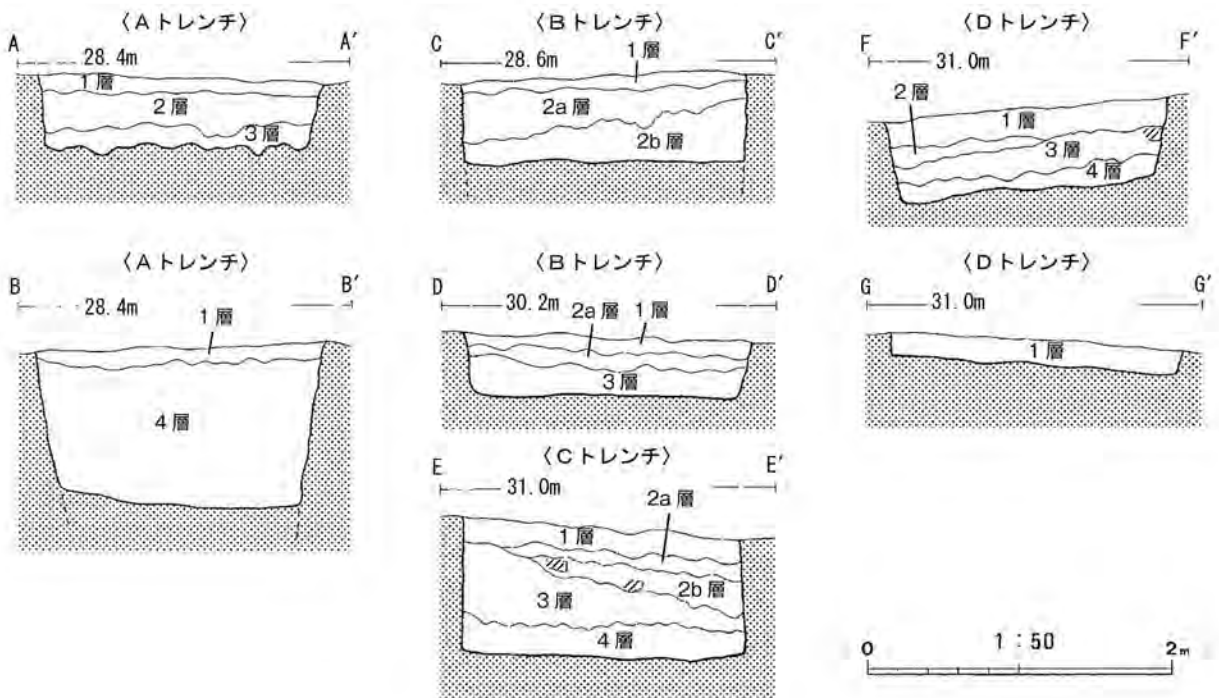
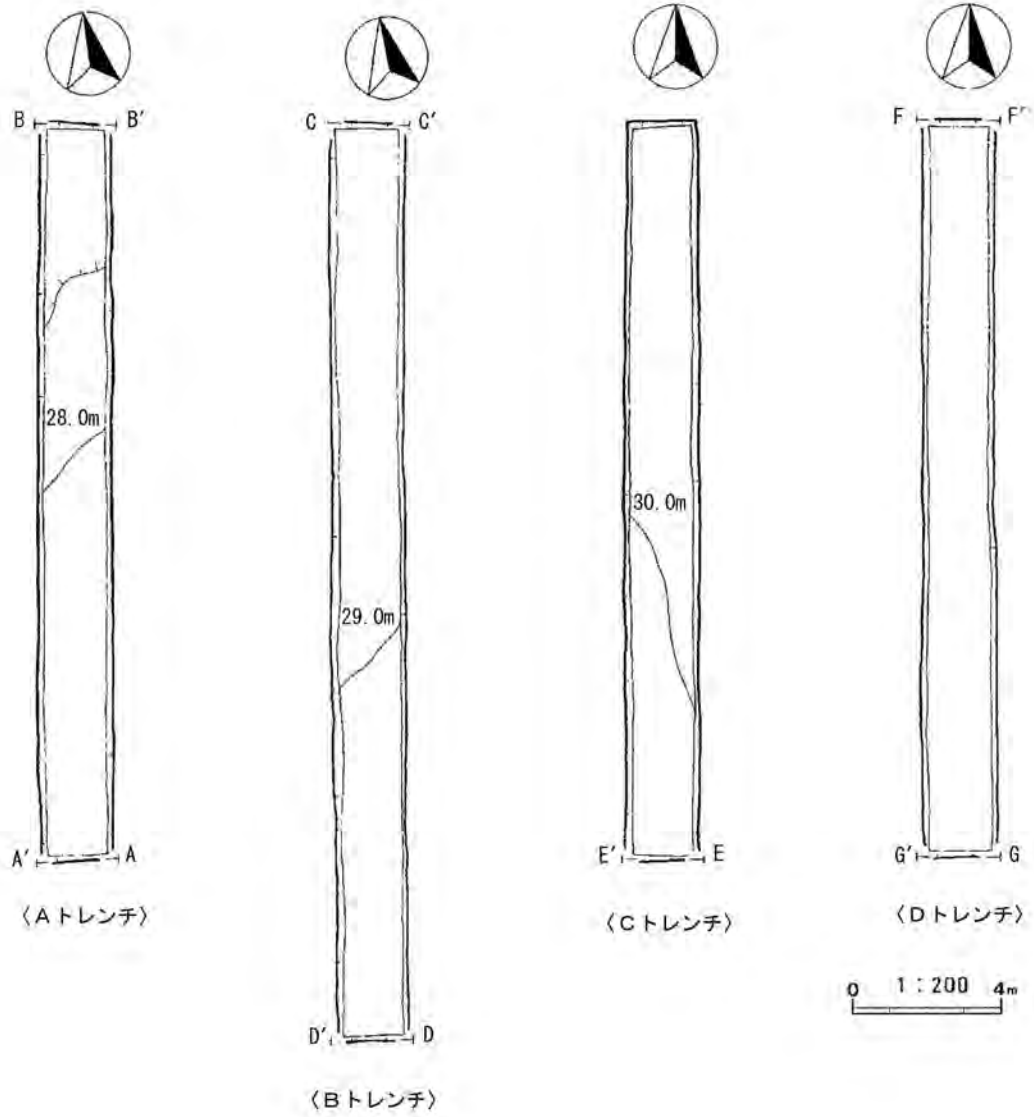
第12図 遺物包含層 出土遺物(4)



第 13 図 遺物包含層 出土遺物(5)



第14図 遺物包含層 出土石器



第15図 試掘調査トレンチ 平面図・断面図

第4節 試掘調査概要

八木沢駒込 I 遺跡の試掘調査は平成 19 年度に計 5 か所（A～E トレンチ）において試掘トレンチを設定し実施している。なお、前述のとおり E トレンチは縄文時代の遺物包含層が検出されたために平成 21 年度に本調査を実施している。ここでは、A～D トレンチの試掘調査概要を詳述する。

A トレンチは八木沢駒込 I 遺跡範囲の中央部に位置する畑地に長さ 10 m、幅 1 m で設定した。堆積土は 1 層～4 層に分けられ、1 層は表土でトレンチ内の全域に堆積している。2 層は黒褐色を呈する埴壤土で、水分を多く含んでいる。3 層はトレンチ西側に堆積しており地山漸移層である。4 層はトレンチ北端にのみ堆積し沢による水成堆積層と考えられ、粒子の粗い砂や礫が含まれる砂層である。湧水がみられ、途中まで掘り下げを行っている。なお、トレンチ北端を除き地山面が確認されている。遺構・遺物は確認されなかった。

B トレンチは A トレンチの西側に長さ 12 m、幅 1 m で設定した。現況は畑地である。堆積土は 1 層～3 層に大別され、さらに 2 層は 2 a 層・2 b 層に細別される。1 層は表土、2 層は黒褐色を呈する堆積土で、3 層は地山漸移層である。トレンチ北端部で湧水がひどく、その部分を除き地山面が確認されている。遺構・遺物は確認されなかった。

C トレンチは B トレンチの南側に長さ 10 m、幅 1 m で設定した。現況は旧畑地である。堆積土は 1 層～4 層に大別され、さらに 2 層は 2 a 層・2 b 層に細別される。1 層は表土で、2 a 層・2 b 層は盛土である。3 層は黒褐色を呈する砂壤土、4 層は黒褐色を呈する地山漸移層である。トレンチ北端を除き地山面が確認されている。トレンチ北側は沢地形となっており砂層が厚く堆積し、湧水がひどいため地山は確認されなかった。遺構・遺物は確認されなかった。

D トレンチは C トレンチの南側に長さ 10 m、幅 1 m で設定した。現況は旧畑地である。堆積土は 1 層～4 層に分けられる。トレンチ南側では地山面の土層に盛土である 1 層が堆積し、すでに上面は掘削されていると推測される。4 層は黒褐色を呈する砂質の強い砂壤土である。遺構・遺物は確認されなかった。

A トレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
盛土層 1	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR3/3 暗褐色埴壤土 10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
自然堆積層 2	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR2/3 黒褐色埴壤土 5%塊状	硬質、粘性あり
地山漸移層 3	10YR2/1 黒色砂壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土 20%塊状	やや硬質、粘性ややあり
水成堆積層 4	10YR2/2 黒褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色砂土 10%塊状	硬質、粘性あり

B トレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
盛土層 1	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR3/3 暗褐色埴壤土 10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
自然堆積層 2a	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR2/3 黒褐色埴壤土 5%塊状	硬質、粘性あり
水成堆積層 2b	10YR2/1 黒色砂壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土 20%塊状	やや硬質、粘性ややあり
地山漸移層 3	10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR2/2 黒褐色砂壤土 10%塊状	やや硬質、粘性ややあり

C トレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
盛土層 1	10YR2/3 黒褐色埴壤土	10YR4/6 褐色埴壤土 10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
盛土層 2a	10YR2/2 黒褐色砂壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質埴土 20%塊状	やや硬質、粘性ややあり
盛土層 2b	10YR2/3 黒褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色砂壤土 20%塊状	やや硬質、粘性ややあり
自然堆積層 3	10YR2/2 黒褐色砂壤土	10YR2/3 黒褐色砂壤土 10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
地山漸移層 4	10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR2/2 黒褐色砂壤土 30%塊状	やや硬質、粘性あり

D トレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
盛土層 1	10YR2/3 黒褐色埴壤土	10YR4/6 褐色埴壤土 10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
自然堆積層 2	10YR2/2 黒褐色砂壤土	10YR5/8 黄褐色シルト質埴土 20%塊状	やや硬質、粘性ややあり
自然堆積層 3	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR2/1 黒色埴壤土 5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
自然堆積層 4	10YR2/2 黒褐色砂壤土	10YR2/3 黒褐色砂壤土 10%塊状	やや硬質、粘性ややあり

第4章 八木沢駒込Ⅱ遺跡及び遺跡隣接地

第1節 調査方法と調査経過

実測・写真撮影・土層注記

試掘トレンチ平面図及び断面図の縮尺は1/20を基本とし、レベルは市道磯鶏金浜線道路改良工事の基準杭をもとに調査区に基準高を設定した。写真撮影は35mmの一眼レフカメラを使用し、フィルムはモノクロ、カラーリバーサル、カラーフィルムの3種類を用いた。さらに参考としてデジタルカメラも併用した。土層注記は「新版標準土色帖」を用いて肉眼による観察を行った。観察項目は色調・土性・しまり・粘性・混入物などである。

整理の方法

調査終了後、試掘トレンチ実測図及び全体図は、平面図と断面図相互の整合性についてチェックし、第2原図の作成を行い、さらにトレースを行った。撮影した写真は現場で記録した写真台帳を基に白黒フィルムはネガアルバムに、カラーリバーサルフィルムはスライドファイルに収納し、それぞれ写真1枚ごとに番号を付した。

調査経過

<平成19年度 八木沢駒込Ⅱ遺跡 試掘調査>

- 11月1日 調査前現況を写真撮影し、試掘調査を開始した。
- 11月12日 八木沢駒込Ⅱ遺跡内にFトレンチを設定し、掘り下げを開始した。
- 11月27日 トレンチ平面図・断面図を作成した。
- 12月4日 トレンチ埋め戻しを開始した。
- 12月12日 機材を撤収し、試掘調査を終了した。

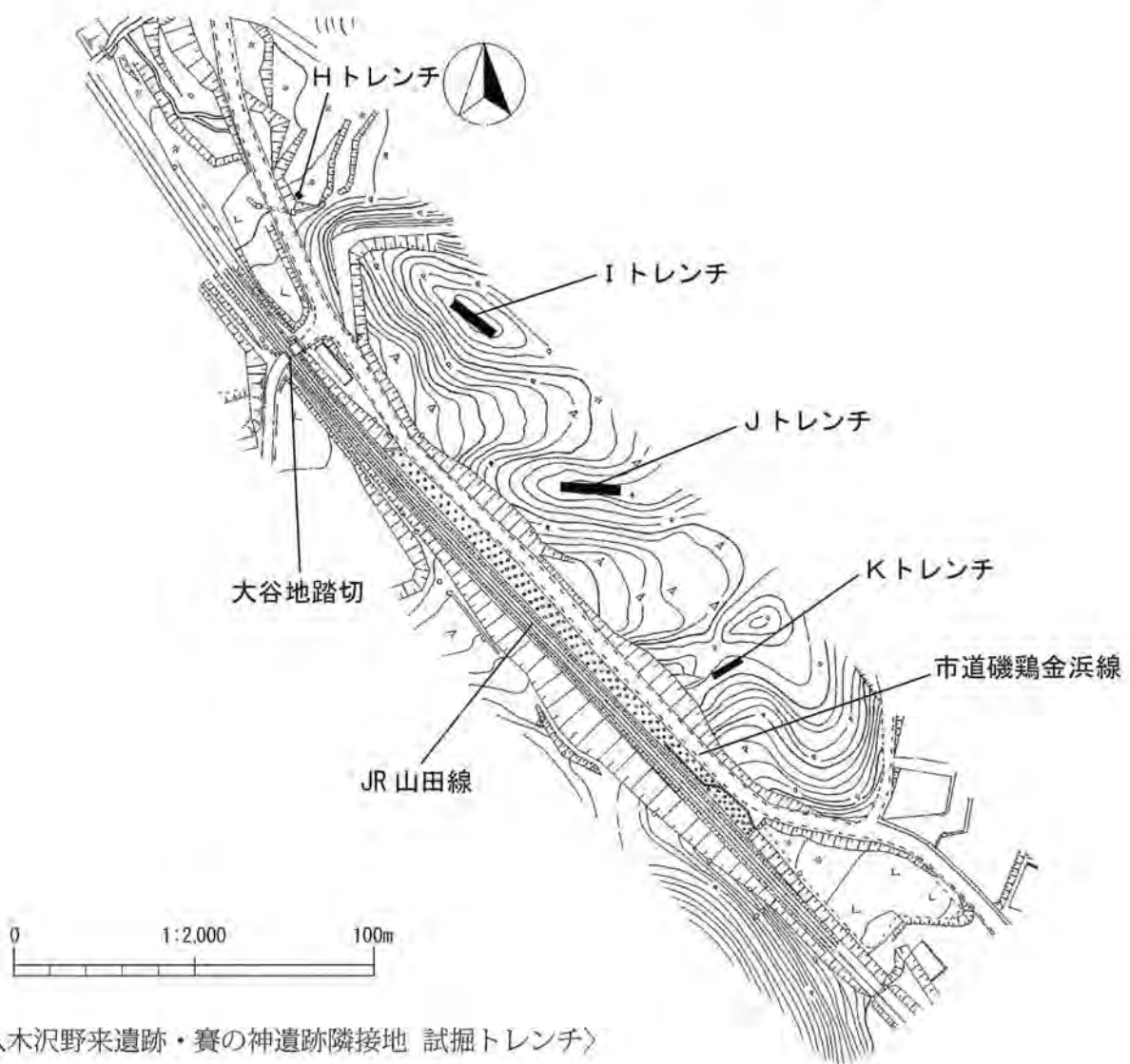
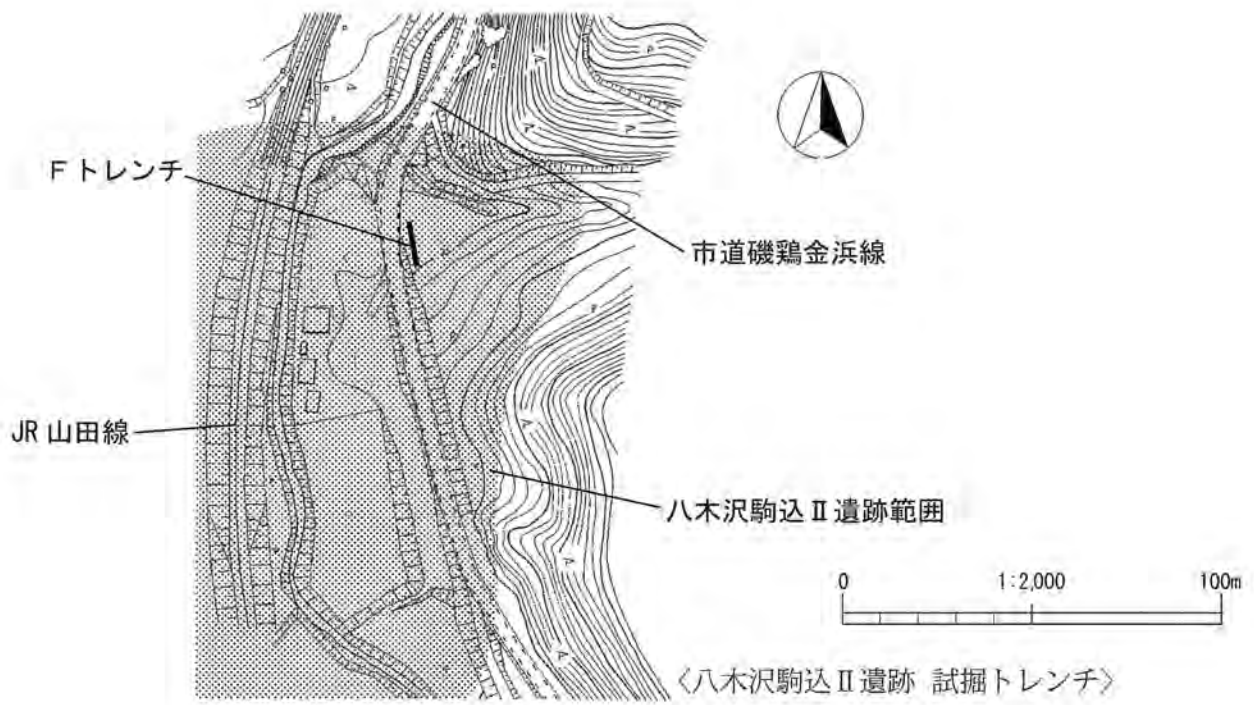
<平成20年度 八木沢駒込Ⅱ遺跡・八木沢野来遺跡・賽の神遺跡隣接地 試掘調査>

- 11月6日 試掘トレンチを設定し、調査を開始した。
- 11月7日 Iトレンチの掘り下げを開始し、地山面を確認した。
- 11月10日 Jトレンチの掘り下げを開始した。
- 11月11日 Jトレンチの地山面を確認した。Kトレンチの掘り下げを開始した。
- 11月12日 Gトレンチの掘り下げを開始した。
- 11月13日 試掘トレンチの平面図・断面図を作成した。
- 11月19日 平面図・断面図の作成終了。機材を撤収し調査を終了した。

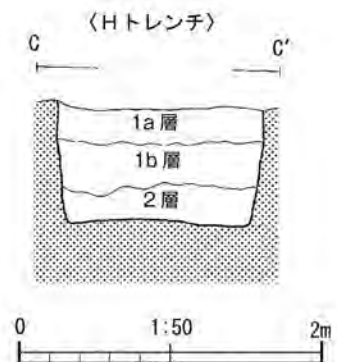
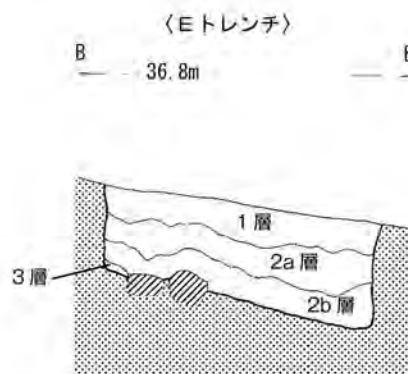
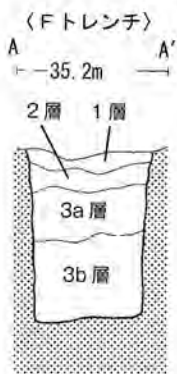
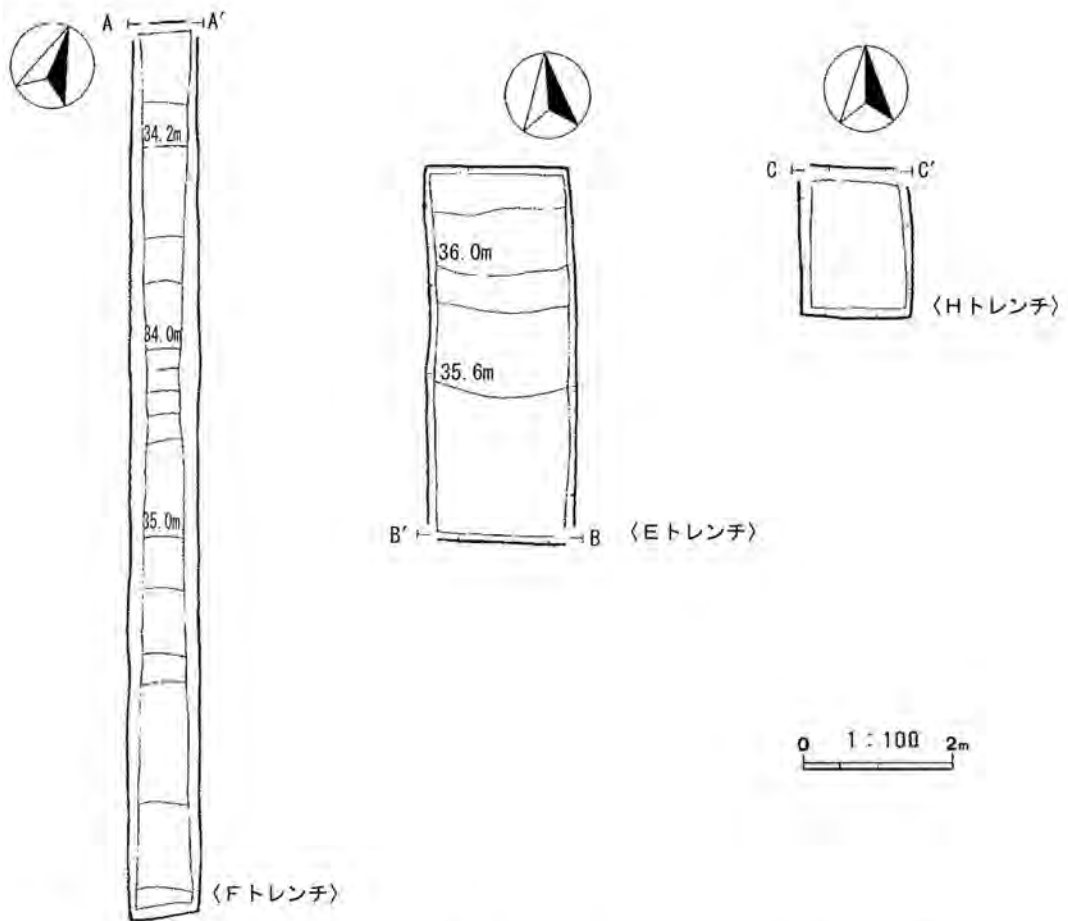
第2節 試掘調査概要

八木沢駒込Ⅱ遺跡の試掘調査は、道路工事範囲内において試掘トレンチを1ヶ所設定している（Fトレンチ）。現況は山林であったため、樹木の間には長さ12m、幅1mで設定している。堆積土は1層～3層に大別され、さらに3a層・3b層に細別される。1層は表土で、2層は黒色を呈する砂壤土、3a層・3b層は砂層である。3a層・3b層はトレンチ北側に向かって落ち込んでいる箇所に堆積しているため、Fトレンチの北を流れる沢による水成堆積層であると考えられる。遺構・遺物は確認されなかった。

八木沢駒込Ⅰ遺跡隣接地の試掘調査は、試掘トレンチを1ヶ所、長さ5m、幅2mで設定している（E



第16図 試掘調査トレンチ位置図



Ｅトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
表土層 1	10YR3/2 黒褐色埴壤土	10YR3/3 暗褐色埴壤土 5%塊状	軟質、粘性なし
自然埴積層 2	10YR2/1 黒色砂壤土	10YR2/2 黒褐色砂壤土 10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
水成埴積層 3a	10YR2/3 黒褐色砂土	10YR4/6 褐色砂土 20%塊状	軟質、粘性なし
水成埴積層 3b	10YR2/3 黒褐色砂土	10YR3/4 暗褐色砂土 30%層状	軟質、粘性なし

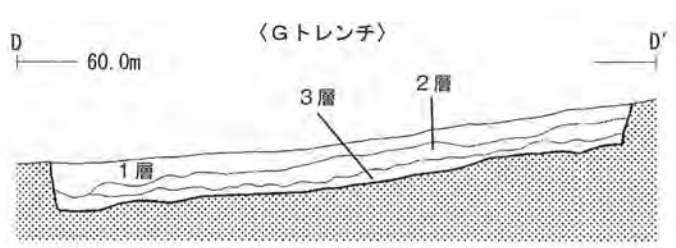
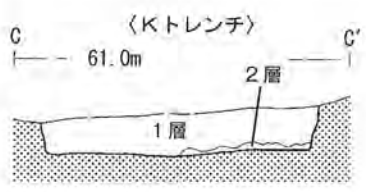
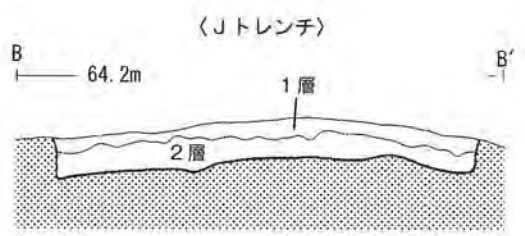
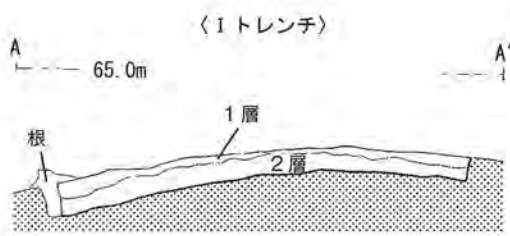
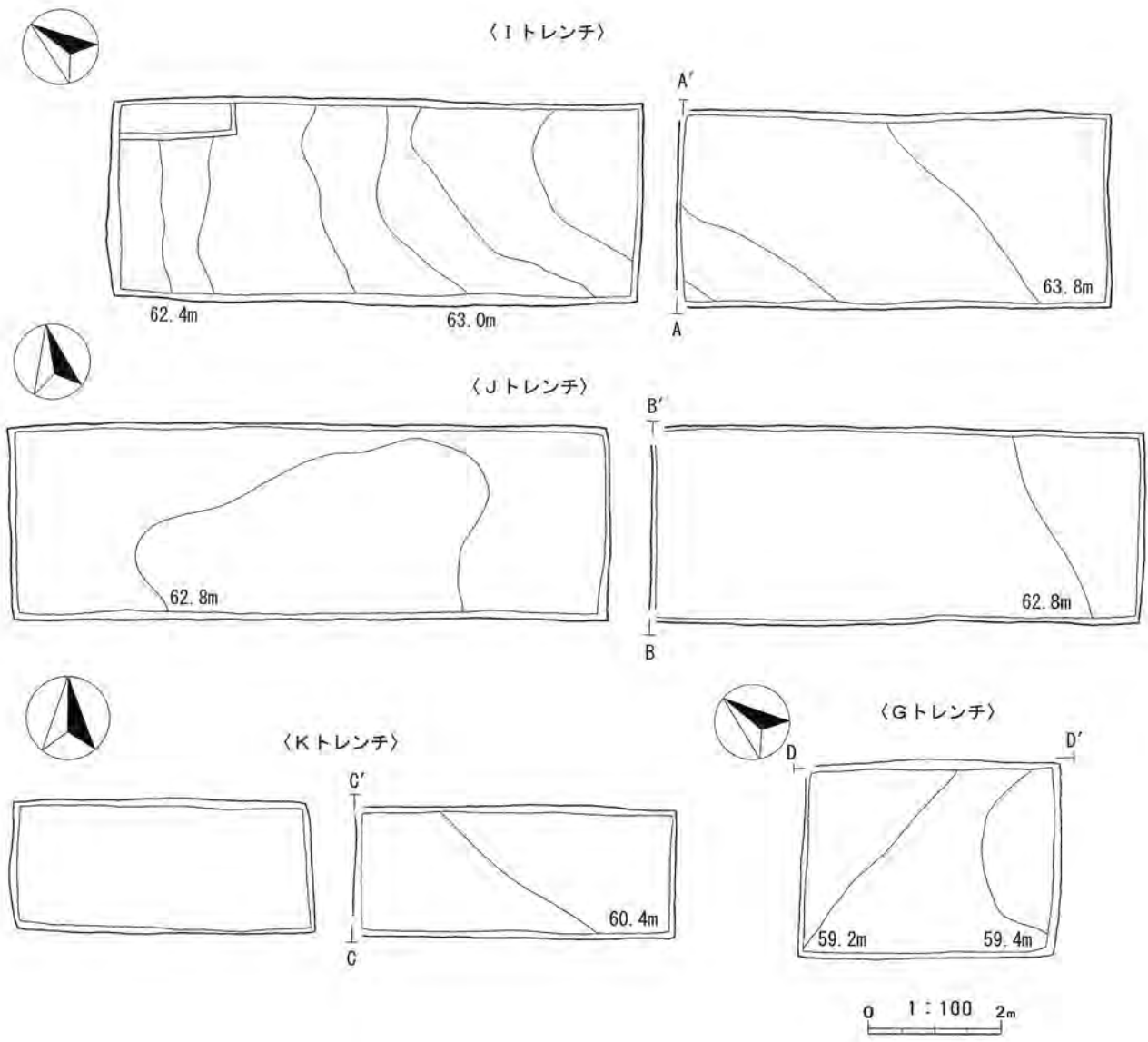
Ｆトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
表土層 1	10YR2/3 黒褐色砂壤土	10YR2/2 黒褐色砂壤土 10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
自然埴積層 2a	10YR2/3 黒褐色砂壤土	10YR2/2 黒褐色砂壤土 30%塊状	硬質、粘性あり
自然埴積層 2b	10YR2/3 黒褐色砂壤土	10YR3/3 暗褐色砂壤土 10%塊状	硬質、粘性あり
地山運移層 3	10YR2/3 黒褐色埴壤土	10YR4/4 褐色砂壤土 30%塊状	1cm大の小礫含まれる 硬質、粘性あり

Ｈトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
表土層 1a	10YR2/3 黒褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色砂土 5%塊状	硬質、粘性あり
表土層 1b	10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色シルト質埴土 10%塊状	硬質、粘性あり
水成埴積層 2	10YR4/6 褐色砂土	10YR3/4 暗褐色砂土 5%塊状	軟質、粘性なし

第 17 図 試掘調査トレンチ 平面図・断面図 (1)



第 18 図 試掘調査トレンチ 平面図・断面図 (2)

トレンチ、第5図)。堆積土は1層～3層に大別され、さらに2 a層・2 b層で細別される。1層は表土で、2 a層・2 b層は黒褐色を呈する砂壤土、3層は黒褐色を呈する埴壤土である。3層はトレンチ南端にのみ堆積している。遺構・遺物は確認されなかった。

八木沢駒込Ⅱ遺跡隣接地では、試掘トレンチを1ヶ所設定している（Gトレンチ）。遺跡範囲の北東に位置する標高約60mの尾根上平坦面に長さ4m、幅3mで設定した。堆積土は1層～3層に分けられ、1層は表土、2層は黒色を呈する堆積土で、3層は黒褐色を呈する地山漸移層である。遺構・遺物は確認されなかった。

八木沢野来遺跡隣接地では試掘トレンチを1ヶ所、長さ2m、幅1.5mで設定している（Hトレンチ）。堆積土は1層・2層に大別され、さらに1 a層・1 b層に細別される。1 a層・1 b層は盛土で、2層は砂層である。沢による水成堆積層と考えられる。遺構・遺物は確認されなかった。

賽の神遺跡隣接地では試掘トレンチを3ヶ所設定している（Iトレンチ～Kトレンチ）。Iトレンチは、北西方向に延びる尾根上の平坦部に長さ15m、幅3mで設定した。堆積土は1層・2層に分けられ、1層は表土でトレンチ内の全域に薄く堆積している。2層は褐色を呈する埴壤土で、この下層が地山面となる。遺構・遺物は確認されなかった。

Jトレンチは西方向に延びる尾根上の平坦部に長さ17m、幅3mで設定した。堆積土は1層・2層に分けられ、1層は褐色を呈する表土で、2層も同様に褐色を呈する地山漸移層である。地山までの層厚は厚いところでも25cmと堆積は薄い。遺構・遺物は確認されなかった。

Kトレンチは南北方向に延びる尾根上の平坦部に長さ10m、幅2mで設定した。堆積土は1層・2層に分けられ、1層は層厚35cmと厚く堆積しているが、しまりがなく盛土層と考えられる。2層は黄褐色を呈する砂壤土で、地山漸移層と推測される。盛土中に遺物の出土はなく時期は特定できなかった。遺構も確認されなかった。

Gトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
表土層 1	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR2/3 黒褐色埴壤土 5%塊状	やや硬質、粘性なし
自然堆積層 2	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土 10%塊状	硬質、粘性あり
地山漸移層 3	10YR2/3 黒褐色埴壤土	10YR2/3 黒褐色埴壤土 10%塊状	硬質、粘性あり

Iトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
表土層 1	10YR4/4 褐色埴壤土	10YR4/6 褐色埴壤土 10%塊状	軟質、粘性なし
地山漸移層 2	10YR5/4 にぶい黄褐色埴壤土	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土 5%塊状	軟質、粘性なし

Jトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
表土層 1	10YR4/4 褐色埴壤土	10YR3/4 暗褐色埴壤土 20%塊状	やや硬質、粘性ややあり
地山漸移層 2	10YR4/6 褐色埴壤土	10YR5/6 黄褐色埴壤土 10%塊状	やや硬質、粘性ややあり

Kトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
盛土層 1	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土 5%塊状	軟質、粘性なし、盛土層
自然堆積層 2	10YR5/6 黄褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色砂壤土 10%塊状	軟質、粘性なし

第2表 八木沢駒込Ⅰ遺跡 土器観察表(1)

挿図番号	番号	出土地点	層位	部位	文 様 (外面)	内面調整	胎 土	備 考
第8図	1	1号土坑	I層	胴部	R L単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	外面磨滅
第8図	2	1号土坑	I層	胴部	R L単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第9図	1	遺物包含層	II層	口縁部	R L単節斜縄文、不整撚糸文	ナデ	砂粒、繊維含む	5mm大の砂粒多量
第9図	2	遺物包含層	II層	口縁部	羽状縄文(磨滅詳細不明)	ナデ	砂粒、繊維含む	外面磨滅
第9図	3	遺物包含層	II層	口縁部	L R単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第9図	4	遺物包含層	II層	口縁部	L R単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第9図	5	遺物包含層	II層	口縁部	L R単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第9図	6	遺物包含層	II層	口縁部	L R単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第9図	7	遺物包含層	II層	口縁部	L R単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第9図	8	遺物包含層	II層	口縁部	組縄縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第9図	9	遺物包含層	II層	口縁部	組縄縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	5mm大の砂粒
第9図	10	遺物包含層	II層	口縁部	L R単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	外面炭化物付着
第9図	11	遺物包含層	II層	口縁部	組縄縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第9図	12	遺物包含層	II層	口縁部	L R単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第9図	13	遺物包含層	II層	口縁部	組縄縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第9図	14	遺物包含層	II層	口縁部	組縄縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	5mm大の砂粒
第9図	15	遺物包含層	II層	口縁部	組縄縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	5mm大の砂粒
第9図	16	遺物包含層	II層	胴部	羽状縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第9図	17	遺物包含層	II層	胴部	L R単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第9図	18	遺物包含層	II層	胴部	L R単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第9図	19	遺物包含層	II層	胴部	L R単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第10図	20	遺物包含層	II層	胴部	R L R複節縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第10図	21	遺物包含層	II層	胴部	L R単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第10図	22	遺物包含層	II層	胴部	R L R複節縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第10図	23	遺物包含層	II層	胴部	L R単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第10図	24	遺物包含層	II層	胴部	L R単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第10図	25	遺物包含層	II層	胴部	L R単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第10図	26	遺物包含層	II層	胴部	組縄縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第10図	27	遺物包含層	II層	胴部	組縄縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第10図	28	遺物包含層	II層	胴部	組縄縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第10図	29	遺物包含層	II層	胴部	L R単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第10図	30	遺物包含層	II層	胴部	R L R複節縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第10図	31	遺物包含層	II層	胴部	L R単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第10図	32	遺物包含層	II層	胴部	組縄縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第10図	33	遺物包含層	II層	胴部	R L単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	底部周辺破片
第10図	34	遺物包含層	II層	胴部	組縄縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第10図	35	遺物包含層	II層	胴部	組縄縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第10図	36	遺物包含層	II層	胴部	R L単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第10図	37	遺物包含層	II層	胴部	L R単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第10図	38	遺物包含層	II層	胴部	L R単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第10図	39	遺物包含層	II層	胴部	組縄縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	5mm大の砂粒
第10図	40	遺物包含層	II層	胴部	組縄縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第10図	41	遺物包含層	II層	胴部	L R単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第10図	42	遺物包含層	II層	胴部	R L R複節縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第10図	43	遺物包含層	II層	胴部	L R単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第10図	44	遺物包含層	II層	胴部	組縄縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第10図	45	遺物包含層	II層	胴部	組縄縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第10図	46	遺物包含層	II層	胴部	L R単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第11図	47	遺物包含層	II層	胴部	L R単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第11図	48	遺物包含層	II層	胴部	組縄縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第11図	49	遺物包含層	II層	胴部	L R単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	5mm大の砂粒
第11図	50	遺物包含層	II層	胴部	組縄縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第11図	51	遺物包含層	II層	胴部	組縄縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第11図	52	遺物包含層	II層	胴部	L R単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第11図	53	遺物包含層	II層	胴部	R L R複節縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第11図	54	遺物包含層	II層	胴部	L R単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第11図	55	遺物包含層	II層	胴部	組縄縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第11図	56	遺物包含層	II層	胴部	組縄縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第11図	57	遺物包含層	II層	胴部	L R単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第11図	58	遺物包含層	II層	胴部	組縄縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	1cm大の砂粒
第11図	59	遺物包含層	II層	胴部	L R単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第11図	60	遺物包含層	II層	胴部	組縄縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第11図	61	遺物包含層	II層	胴部	L R単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	底部周辺破片
第11図	62	遺物包含層	II層	胴部	L R単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	底部周辺破片

第3表 八木沢駒込 I 遺跡 土器観察表 (2)

挿図番号	番号	出土地点	層位	部位	文 様 (外面)	内面調整	胎 土	備 考
第12図	63	遺物包含層	Ⅱ層	胴部	組縄縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第12図	64	遺物包含層	Ⅱ層	胴部	L R 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	補修孔 (未貫通)
第12図	65	遺物包含層	Ⅱ層	胴部	L R 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	3mm大の砂粒
第12図	66	遺物包含層	Ⅱ層	胴部	L R 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第12図	67	遺物包含層	Ⅱ層	胴部	L R 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第12図	68	遺物包含層	Ⅱ層	胴部	磨滅不明	ナデ	砂粒、繊維含む	
第12図	69	遺物包含層	Ⅱ層	胴部	L R 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第12図	70	遺物包含層	Ⅱ層	胴部	L R 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第12図	71	遺物包含層	Ⅱ層	胴部	L R 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	砂粒多量
第12図	72	遺物包含層	Ⅱ層	胴部	L R 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第12図	73	遺物包含層	Ⅱ層	胴部	L R 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	外面磨滅
第12図	74	遺物包含層	Ⅱ層	胴部	L R 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第12図	75	遺物包含層	Ⅱ層	底部	L R 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	尖底土器
第12図	76	遺物包含層	Ⅱ層	底部	L R 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	尖底土器
第12図	77	遺物包含層	検出面	口縁部	L R 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第12図	78	遺物包含層	検出面	口縁部	L R 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	補修孔
第12図	79	遺物包含層	検出面	口縁部	組縄縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	外面炭化物付着
第13図	80	遺物包含層	検出面	胴部	L R 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第13図	81	遺物包含層	検出面	胴部	R L 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第13図	82	遺物包含層	検出面	胴部	R L 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第13図	83	遺物包含層	検出面	胴部	L R 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第13図	84	遺物包含層	検出面	胴部	組縄縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第13図	85	遺物包含層	検出面	胴部	L R L 複節縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第13図	86	遺物包含層	検出面	胴部	R L 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第13図	87	遺物包含層	検出面	胴部	L R 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第13図	88	遺物包含層	検出面	胴部	R L 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第13図	89	遺物包含層	検出面	胴部	L R 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第13図	90	遺物包含層	検出面	胴部	組縄縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	5mm大の砂粒
第13図	91	遺物包含層	検出面	胴部	R L 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第13図	92	遺物包含層	検出面	胴部	組縄縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第13図	93	遺物包含層	検出面	胴部	L R 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第13図	94	遺物包含層	検出面	胴部	L R 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第13図	95	遺物包含層	検出面	胴部	L R 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第13図	96	遺物包含層	検出面	胴部	L R 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第13図	97	遺物包含層	検出面	胴部	組縄縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第13図	98	遺物包含層	検出面	胴部	組縄縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第13図	99	遺物包含層	検出面	胴部	R L 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第13図	100	遺物包含層	検出面	胴部	L R 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第13図	101	遺物包含層	検出面	胴部	R L 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第13図	102	遺物包含層	検出面	胴部	L R 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	
第13図	103	遺物包含層	検出面	胴部	L R 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	底部周辺破片
第13図	104	遺物包含層	検出面	胴部	L R 単節斜縄文	ナデ	砂粒、繊維含む	

第4表 八木沢駒込 I 遺跡 石器観察表

挿図番号	番号	出土地点	層位	器 種	現存する規模 (cmまたはg)				備 考
					最大長	最大幅	最大厚	重 量	
第14図	1	遺物包含層	検出面	石鏃	1.6	1.3	0.3	0.5	
第14図	2	遺物包含層	Ⅱ層	石鏃	2.4	1.6	0.2	0.7	表面剥離
第14図	3	遺物包含層	Ⅱ層	石鏃	2.3	1.4	0.2	0.5	
第14図	4	遺物包含層	Ⅱ層	石鏃	(1.6)	(1.5)	0.2	0.6	先端部欠損
第14図	5	遺物包含層	Ⅱ層	石鏃	(1.8)	1.3	0.2	0.5	先端部欠損
第14図	6	遺物包含層	Ⅱ層	石鏃	2.4	1.6	0.4	1.3	
第14図	7	遺物包含層	Ⅱ層	石鏃	2.4	1.7	0.3	1.8	
第14図	8	遺物包含層	Ⅱ層	石匙	4.6	1.9	0.7	5	
第14図	9	遺物包含層	Ⅱ層	石匙	5.4	2.1	0.8	9.4	
第14図	10	遺物包含層	I b層	石匙	4.3	2.4	0.6	5.2	
第14図	11	遺物包含層	Ⅱ層	石匙	5.4	1.7	0.7	6.3	
第14図	12	遺物包含層	Ⅱ層	石匙	4.1	2.0	0.6	4.6	
第14図	13	遺物包含層	Ⅱ層	石匙	2.6	(2.7)	0.4	3.2	刃部欠損
第14図	14	遺物包含層	Ⅱ層	搔器	5.8	3.0	1.1	14.3	
第14図	15	遺物包含層	Ⅱ層	搔器	4.7	2.2	0.8	8.2	
第14図	16	遺物包含層	Ⅱ層	磨製石斧	3.1	1.9	0.5	6	表裏面剥離

第5章 まとめ

今回の八木沢駒込Ⅰ遺跡・八木沢駒込Ⅱ遺跡及び遺跡隣接地の発掘調査は、市道磯鷄金浜線道路改良工事に伴い実施され、試掘調査・本調査の結果、八木沢駒込Ⅰ遺跡から縄文時代の土坑Ⅰ基、縄文時代前期前葉の遺物包含層が検出されている。

ここでは、遺物包含層の概要と出土した縄文時代前期の土器について概観しまとめとしたい。

1. 縄文時代の遺物包含層の概要

縄文時代の遺物包含層は、八木沢駒込Ⅰ遺跡範囲の南端周辺、北西方向に広がる山裾の緩斜面で検出され、調査区約95㎡のうち約63㎡の範囲に分布していた。今回は道路の拡幅工事のため細長い調査区となっており、北西向きに広がっている谷状地形に堆積した遺物包含層の一部を調査している。

検出された分布範囲は東西21.7 m、南北3.4 mである。深さは最大1.4 mで、直上には盛土層であるⅠa層～Ⅰc層が堆積しており、畑として利用する際の掘削により遺物包含層の上部は削られているものと考えられ、本来はさらに層としての厚みがあった可能性がある。

堆積土は単層で、3cm大の小礫が含まれる。谷状の地形に堆積しているため、北西方向に向かって層厚が厚いという特徴がある。単一の層からなる堆積状況などから、長い時間幅の中で堆積したのではなく、一時期に堆積したものと推測されるが、遺物包含層の端部のみの検出であるため調査区北西部にさらに広がっていると考えられる遺物包含層中では複数の層が確認される可能性は残されている。

また、今回の調査区では竪穴住居跡などの生活の痕跡は確認できなかったが、縄文土器の中には5cm以上の大きな破片も含まれている。このことから、現在はJ R山田線によって分断されているが、今回の調査区の西側に広がる緩斜面上に居住域がある可能性が高いと考えられる。

2. 縄文時代前期前葉の土器について

ここでは、遺物包含層中から出土した縄文時代前期前葉の土器について概観する。本報告では計104点を図示したが、完形の土器はなく全て破片での出土である。出土層位は遺物包含層(Ⅱ層)中と検出面の2つに分けられるが、遺物包含層は単一層であるため同時期と考えられる。土器破片の部位をみると、口縁部18点、胴部84点、底部2点で、胴部が圧倒的に多く、底部が少ないのが特徴である。さらに底部は2点とも尖底の形態を有する。胎土は全ての土器に繊維が含まれ、第9図1・9・14・15、第10図39、第11図49・58、第13図90には5mm～1cm大の砂粒が多量にみられた。その他第9図10、第12図79の外面には炭化物が付着しているのが観察された。

次に文様をみてみると、第9図1の口縁端部にみられる不整撚糸文以外は地文のみで、組縄縄文、L R単節斜縄文、R L単節斜縄文、複節縄文のいずれかが施文されている。中には羽状を呈する縄文(第9図2・16)もみられるが、磨滅しているため詳細は観察できなかった。口縁部及び底部の破片では端部まで施文されているのが特徴である。

これらの形態や文様の観察から、第9図1は大木2 a式、第9図14・15などでみられた組縄縄文は早稲田6類に相当すると考えられる。「ピッチリ縄文」ともいわれる同様の土器は千鷄遺跡などで

も出土している。それ以外の土器は地文のみであり、詳細な時期は不明であるが、概ね縄文時代前期前葉の範囲に収まると考えられる。このように形態や文様からほぼ縄文時代前期前葉の土器のみであり、遺物包含層の短期間での堆積を裏付けていると思われる。

該期の土器は賽の神遺跡、八木沢野来遺跡などでも多量に出土しており、周辺において縄文時代前期前葉の集落跡の存在が想定されよう。宮古市内では白石遺跡・大又沢Ⅱ遺跡・早稻栃Ⅱ遺跡・崎山貝塚・大付遺跡・千鶏Ⅳ遺跡・千鶏遺跡・高根遺跡・赤前Ⅳ八枚田遺跡など多くの遺跡で出土しており、前代の縄文時代早期と比較しても出土数は多いといえる。

3. 総括

今回の市道磯鶏金浜線道路改良工事に伴う八木沢駒込Ⅰ遺跡・八木沢駒込Ⅱ遺跡の発掘調査では、縄文時代前期の遺物包含層と土坑Ⅰ基が検出された。道路拡幅工事のため調査面積が狭小で遺構数は少ないが、現在までの八木沢駒込Ⅰ遺跡・八木沢駒込Ⅱ遺跡の調査履歴から縄文時代から近世に至るまでの遺構・遺物が検出されていることは特筆される。また、三陸縦貫自動車道宮古道路の建設工事により周辺の遺跡が大規模に発掘調査されているということも特徴の1つといえる。縄文時代の集落跡から古代の集落跡、鉄生産関連遺構や木炭窯跡、中世の墓から近世の畑跡など多種多様な遺構が検出され、小河川である八木沢川により開析された樹枝状の尾根が入り組み平坦面の少ない地形でありながらも多くの遺構が残存していることは各時代の土地利用を考える上でも重要であると考えられる。

今後、周辺の金浜地区や磯鶏地区の遺跡の状況なども詳細に比較検討していくことでさらに八木沢地区の様相が明らかになるとと思われる。

<引用・参考文献>

- 1992 高橋亜貴子「東北地方縄文時代前期前葉組縄縄文について」『東北文化論のための先史学歴史学論集』
- 2006 『八木沢古館 八木沢中田遺跡 八木沢駒込Ⅰ遺跡—市道岸ノ前ラントノ沢線道路工事関係発掘調査報告書—』 宮古市埋蔵文化財調査報告書 67
- 2006 『木戸井内Ⅳ遺跡—宮古市生活課市営火葬場整備事業関係発掘調査報告書—』 宮古市埋蔵文化財調査報告書 68
- 2008 『賽の神Ⅱ遺跡・賽の神遺跡・下大谷地Ⅰ遺跡・八木沢野来遺跡第1次発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第511集
- 2008 『八木沢Ⅱ遺跡・八木沢ラントノ沢Ⅰ遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第528集
- 2010 『八木沢Ⅱ遺跡第2次・八木沢ラントノ沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第551集
- 2011 『八木沢野来遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第573集
- 2011 『八木沢駒込Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第575集

写真図版



1. 八木沢駒込Ⅰ遺跡・八木沢駒込Ⅱ遺跡 航空写真（西→）



2. 八木沢駒込Ⅰ遺跡 遺物包含層 検出状況（北→）



3. 八木沢駒込 I 遺跡 遺物包含層 完掘状況 (北→)



4. 遺物包含層 完掘状況 (北東→)



5. 遺物包含層 堆積状況 (北→)



6. 遺物包含層 堆積状況 (北→)



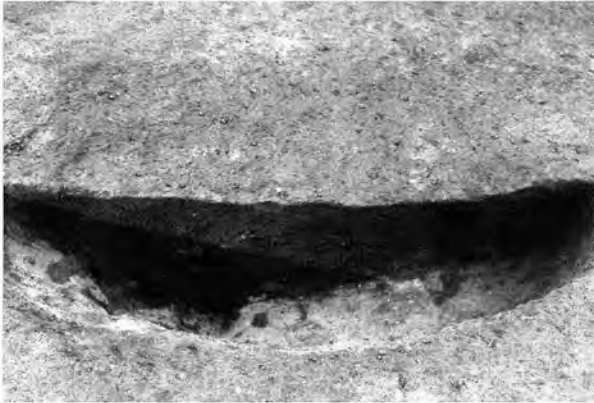
7. 遺物包含層・土坑 完掘状況 (北→)



8. 1号土坑 完掘状況 (南→)



9. 1号土坑 完掘状況 (西→)



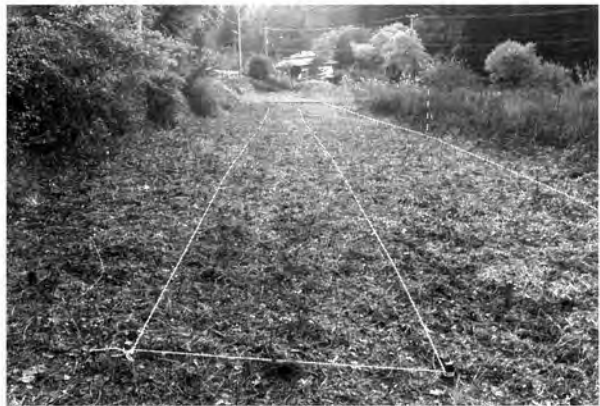
10. 1号土坑 堆積状況 (西→)



11. 1号土坑 縄文土器出土状況 (西→)



12. 八木沢駒込I遺跡 A・Bトレンチ (南→)



13. 八木沢駒込I遺跡 C・Dトレンチ (北→)



14. 八木沢駒込I遺跡 A・Bトレンチ (南→)



15. 八木沢駒込I遺跡 Dトレンチ (南東→)



16. 八木沢駒込Ⅰ遺跡 Cトレンチ (南→)



17. 八木沢駒込Ⅰ遺跡 Cトレンチ (南東→)



18. 遺跡隣接地 Eトレンチ (南→)



19. 遺跡隣接地 Eトレンチ (南→)



20. 八木沢駒込Ⅱ遺跡 Fトレンチ (北→)



21. 八木沢駒込Ⅱ遺跡 Fトレンチ (南→)



22. 遺跡隣接地 Gトレンチ (東→)



23. 遺跡隣接地 Gトレンチ (東→)



24. 遺跡隣接地 Hトレンチ (南→)



25. 遺跡隣接地 Hトレンチ (南→)



26. 遺跡隣接地 Iトレンチ (南→)



27. 遺跡隣接地 Iトレンチ (北→)



28. 遺跡隣接地 Jトレンチ (東→)



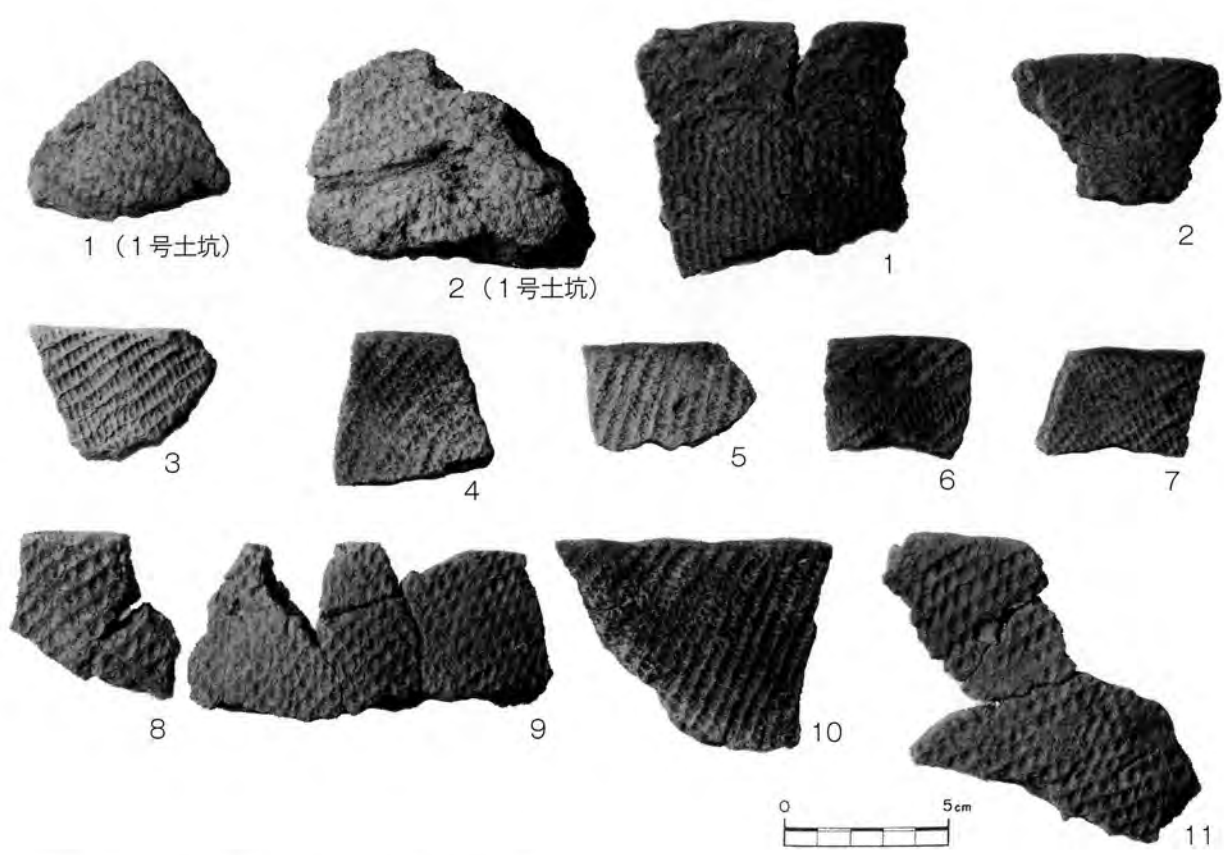
29. 遺跡隣接地 Jトレンチ (西→)



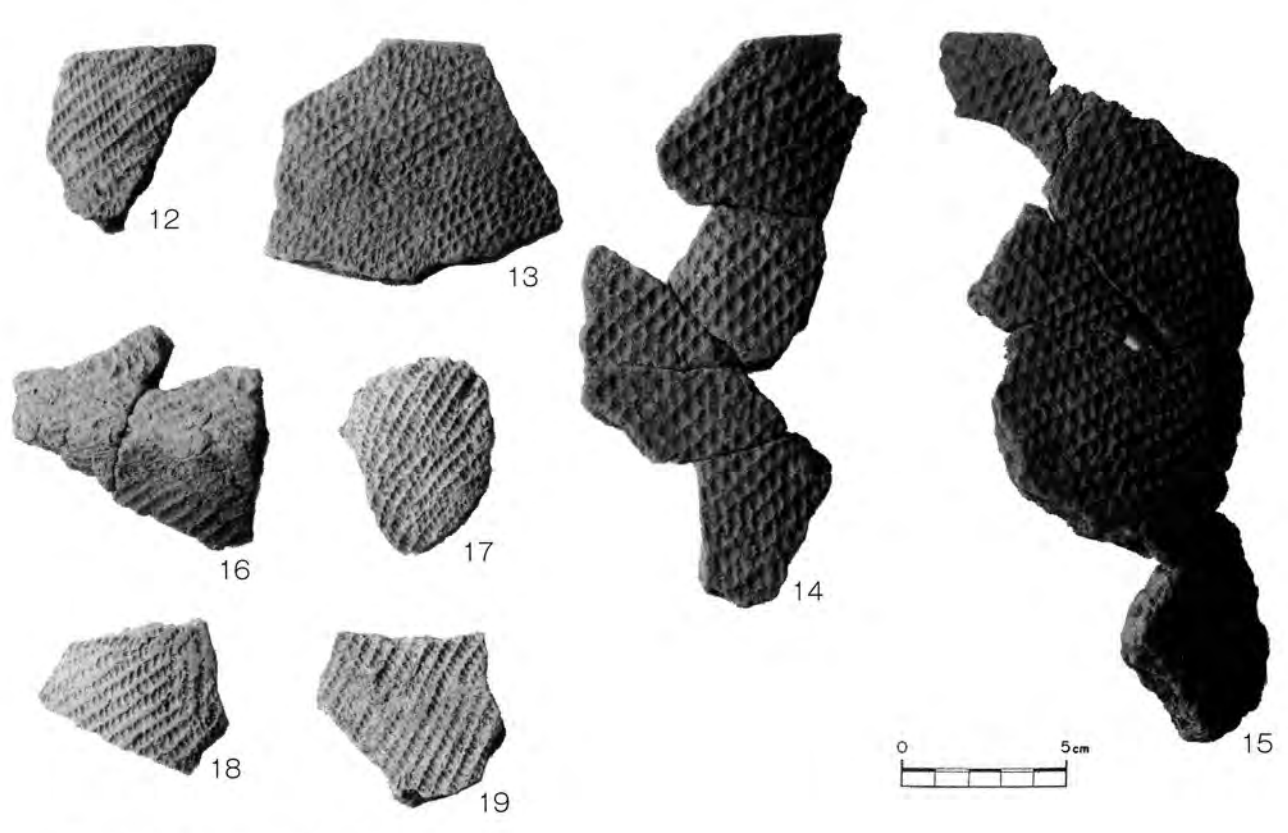
30. 遺跡隣接地 Kトレンチ (西→)



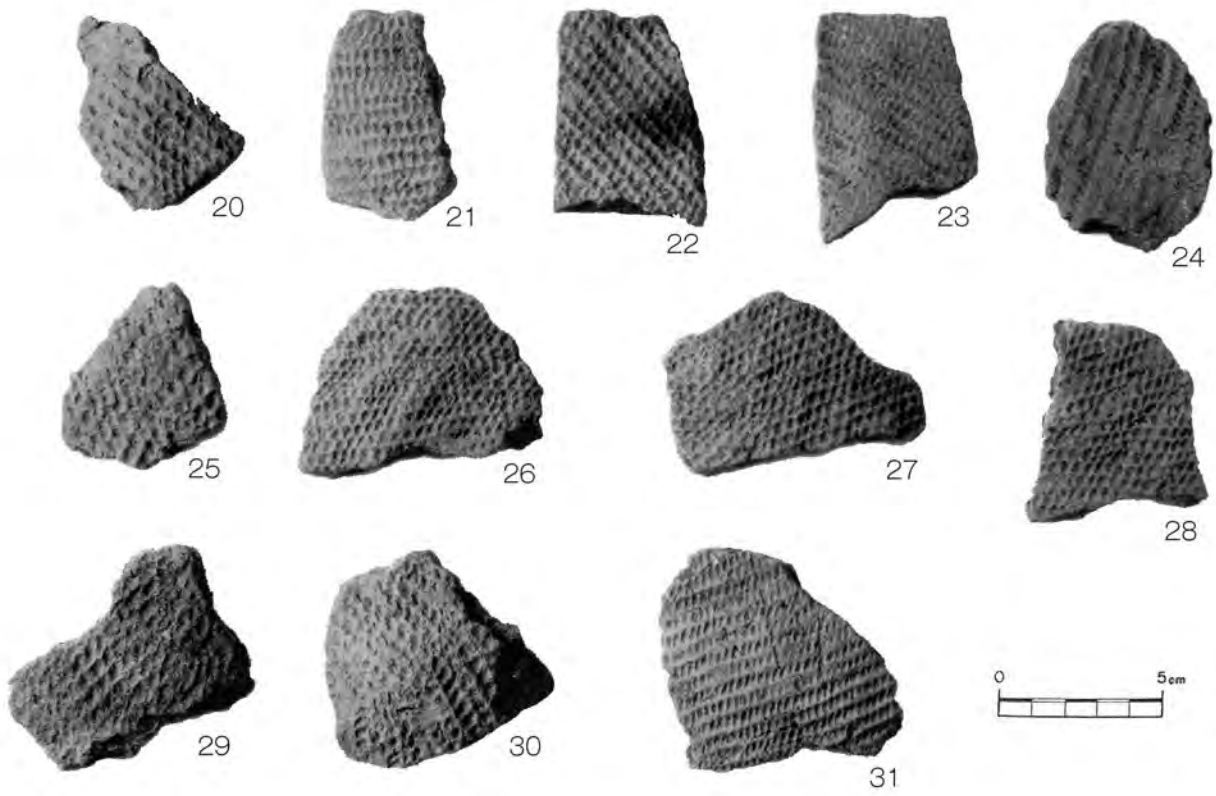
31. 遺跡隣接地 Kトレンチ (西→)



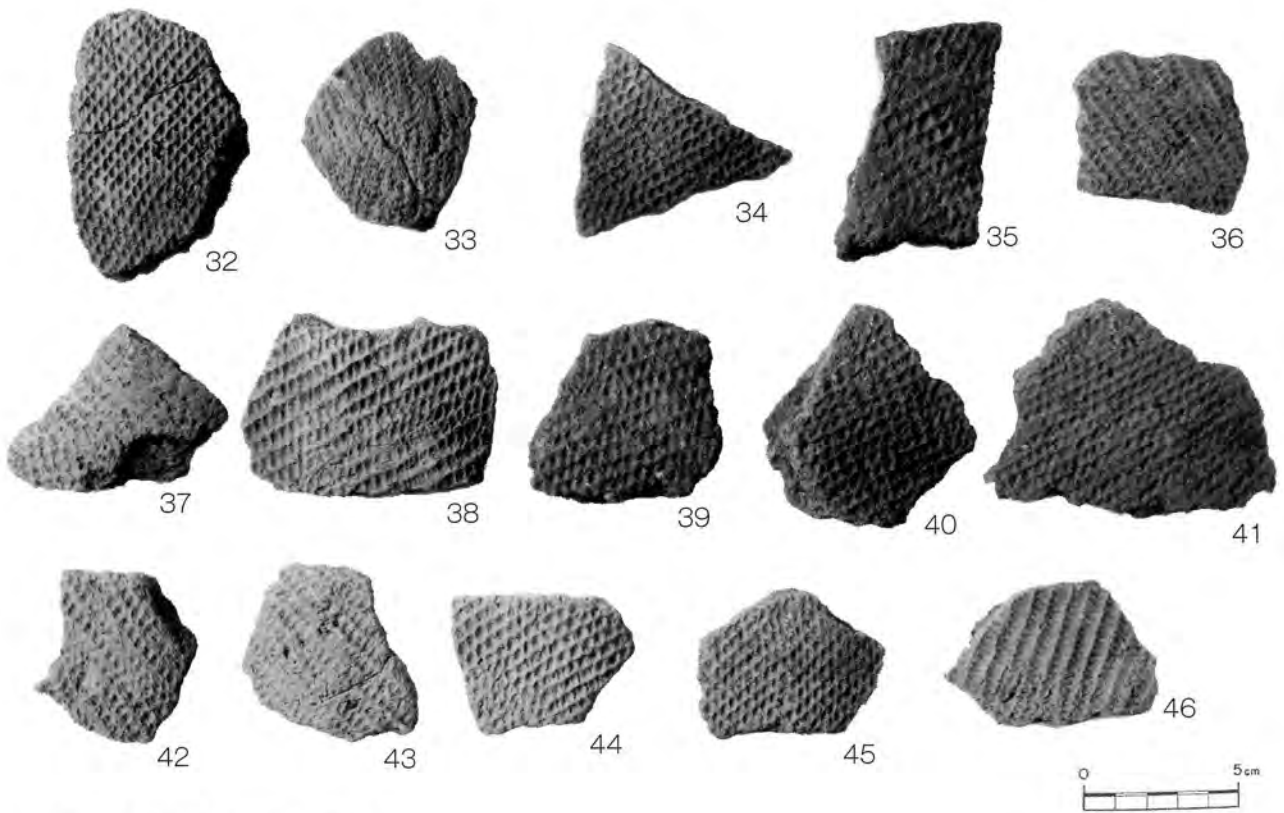
32. 1号土坑·遺物包含層 縄文土器(1)



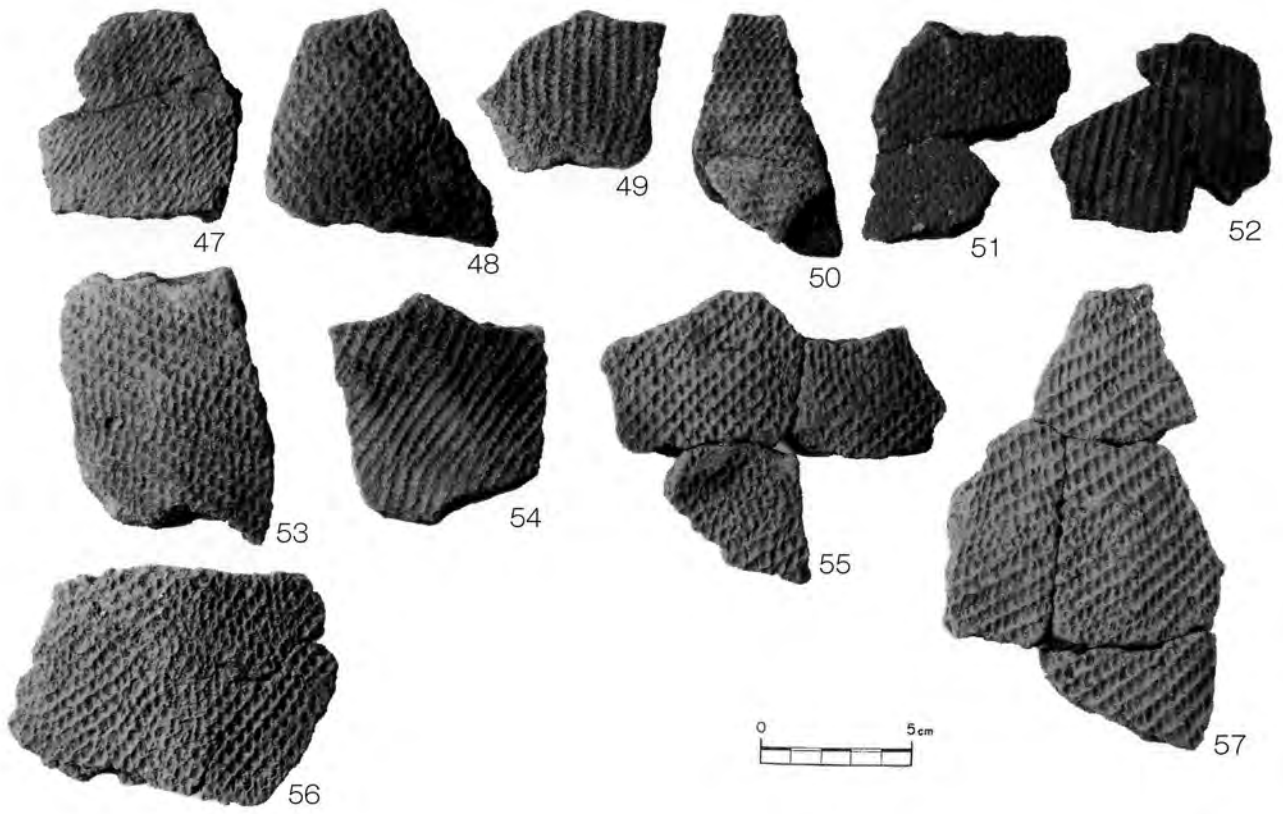
33. 遺物包含層 縄文土器(2)



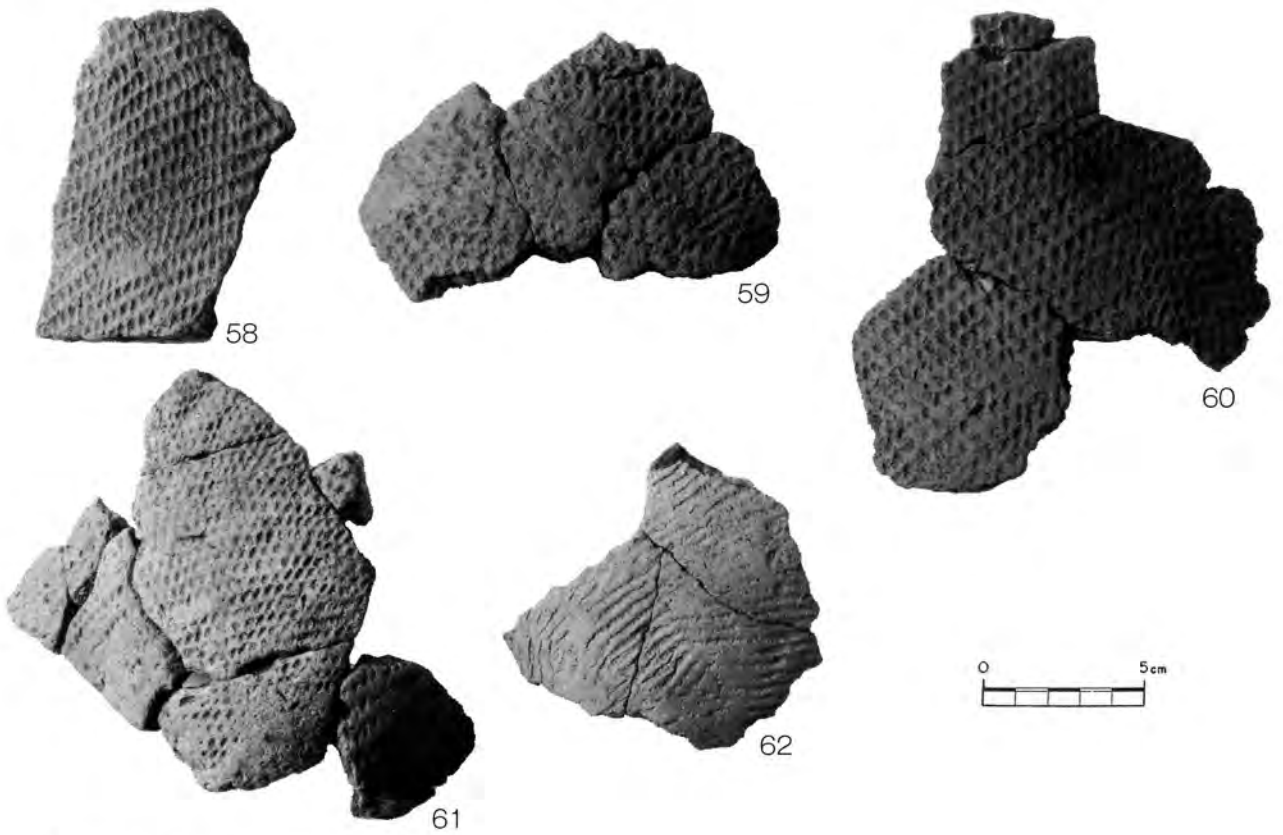
34. 遺物包含層 縄文土器(3)



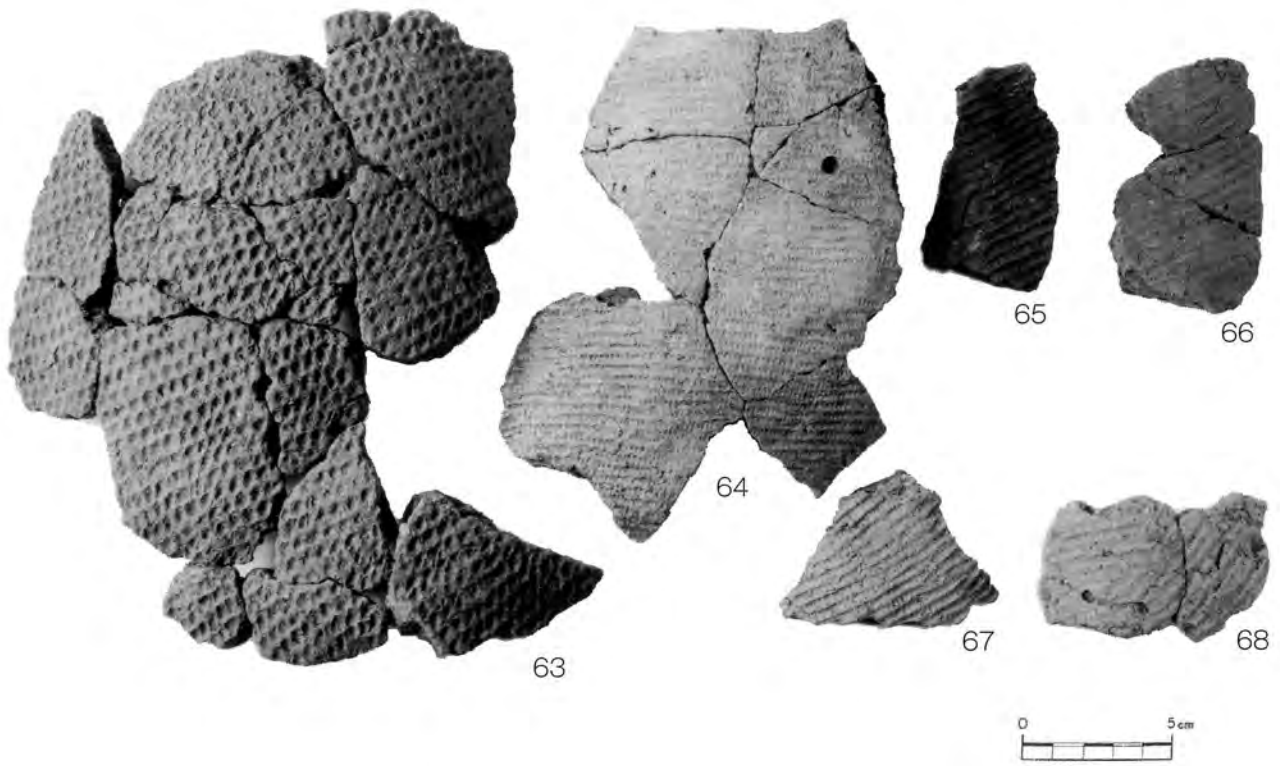
35. 遺物包含層 縄文土器(4)



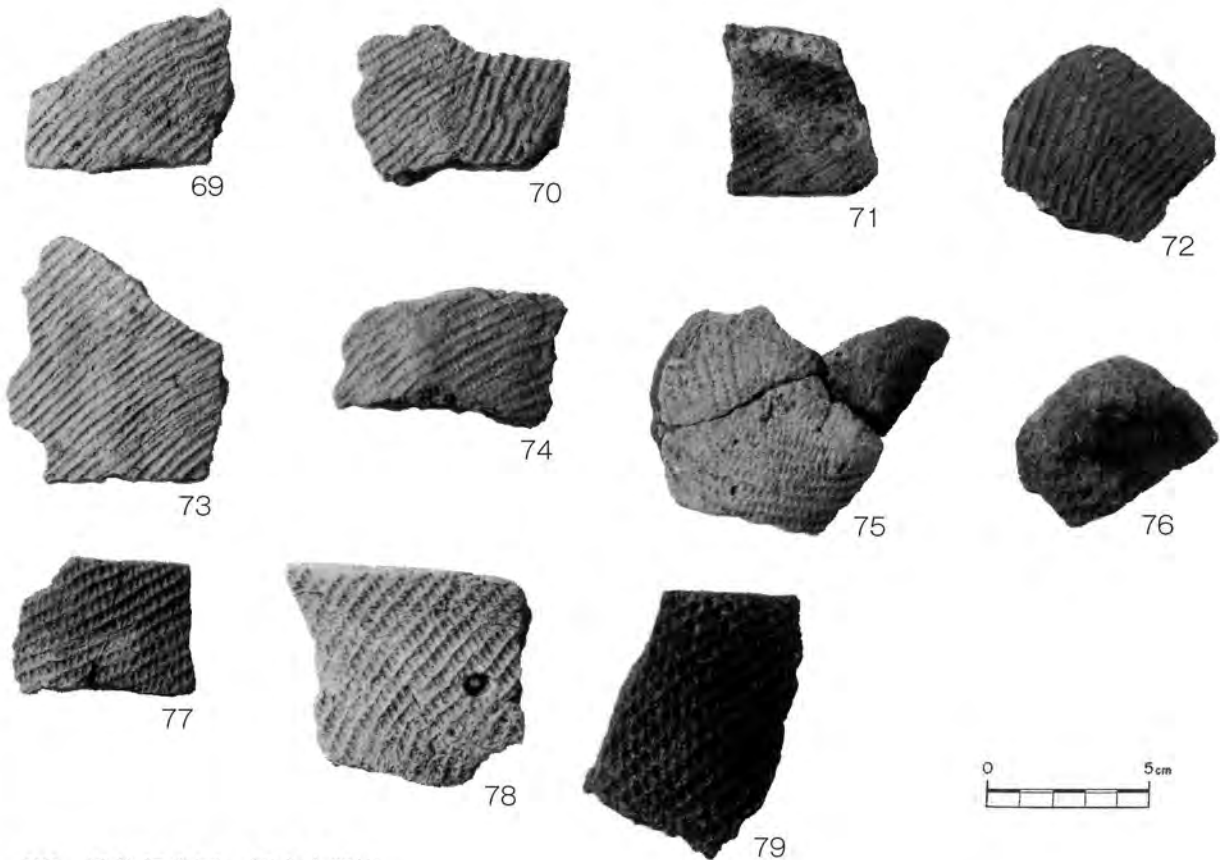
36. 遺物包含層 縄文土器(5)



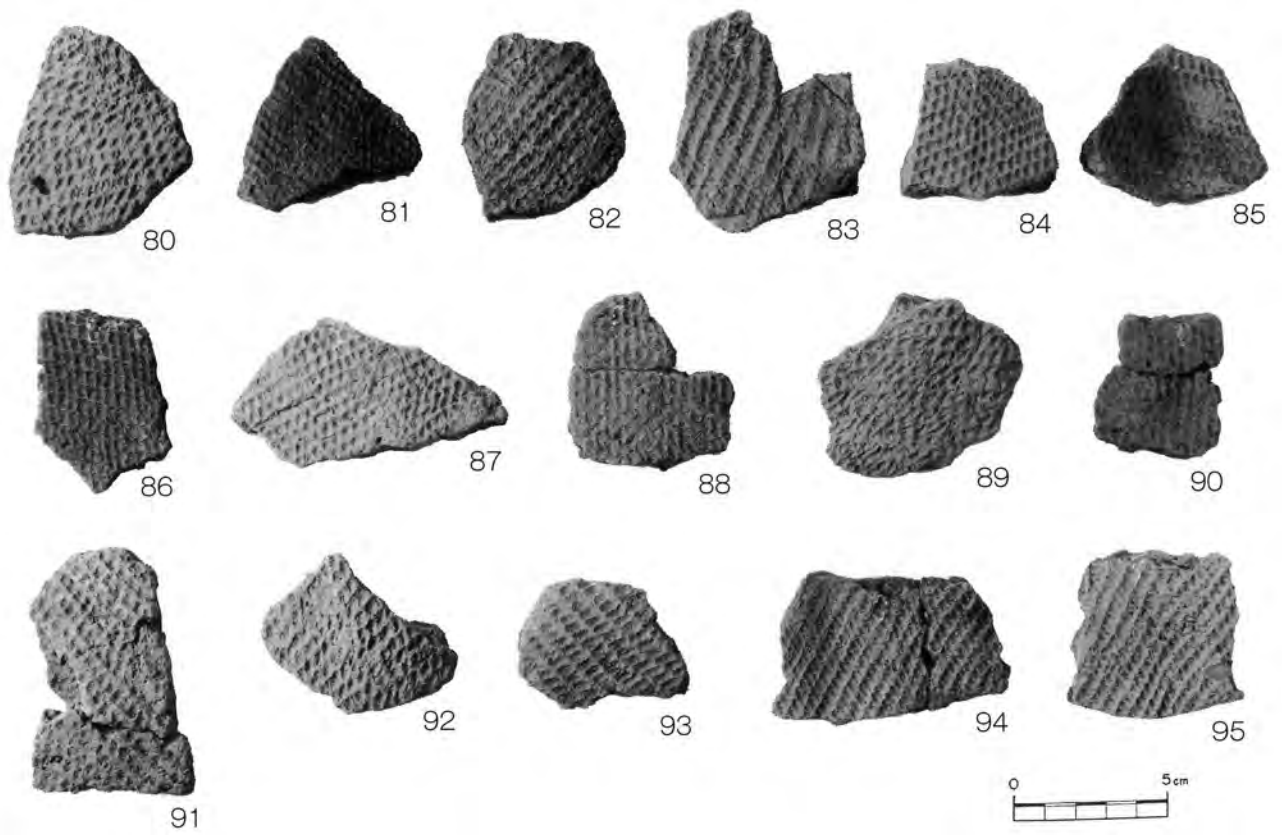
37. 遺物包含層 縄文土器(6)



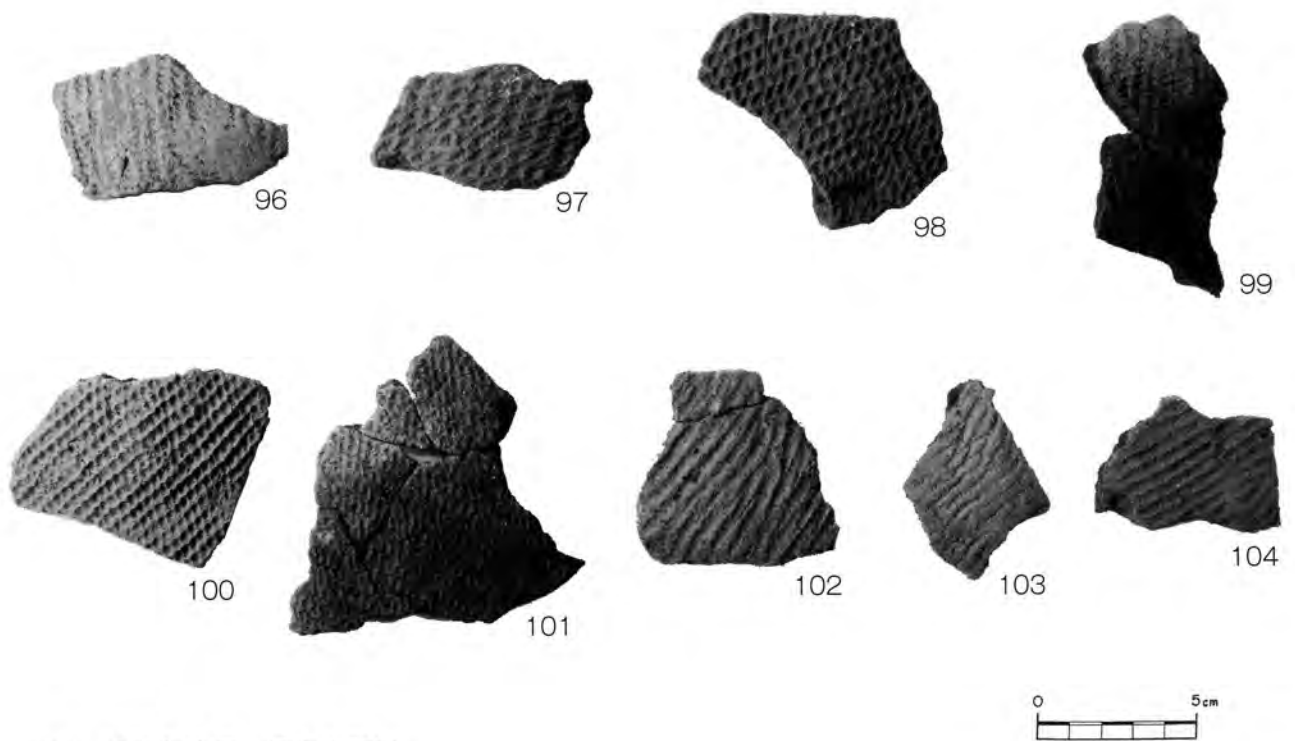
38. 遺物包含層 縄文土器(7)



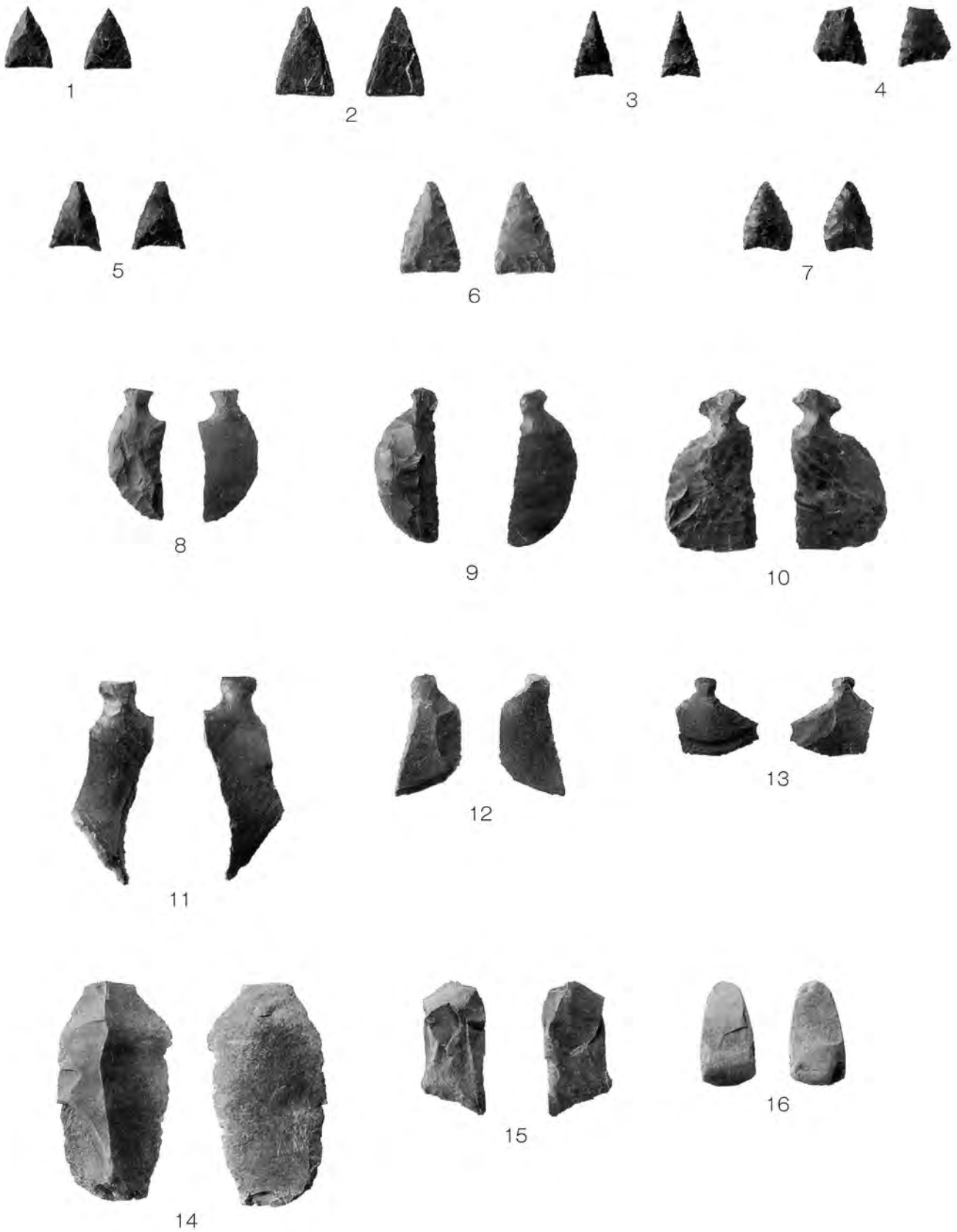
39. 遺物包含層 縄文土器(8)



40. 遺物包含層 繩文土器(9)



41. 遺物包含層 繩文土器(10)



42. 遺物包含層 出土石器 (1 : 2)

報告書抄録

ふりなが	やぎさわこまごめ1・やぎさわごまごめ2							
書名	八木沢駒込Ⅰ遺跡・八木沢駒込Ⅱ遺跡							
副書名	市道磯鶏金浜線道路改良工事関係発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	宮古市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	80							
編著者名	長谷川真							
編集機関	岩手県宮古市教育委員会							
所在地	〒028-2101 岩手県宮古市茂市第2地割112番地1 TEL.0193-68-9122 FAX.0193-72-2176							
発行年月日	2014/3/24							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 〃 〃 (世界測地系)	東経 〃 〃 (世界測地系)	調査期間	調査 面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
やぎさわこまごめ 八木沢駒込 Ⅰ遺跡	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 やぎさわだいち 八木沢第5地 わり 割ほか	03202	LG43-1206	39° 36' 30"	141° 55' 59"	191101～ 191212 211016～ 211119	137㎡	市道磯鶏金浜 線道路改良工 事に伴う本調 査・試掘調査
やぎさわこまごめ 八木沢駒込 Ⅱ遺跡	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 やぎさわだいち 八木沢第5地 わり 割ほか	03202	LG43-1244	39° 36' 24"	141° 55' 55"	191101～ 191212	12㎡	市道磯鶏金浜 線道路改良工 事に伴う試掘 調査
やぎさわのらいいせき 八木沢野来遺跡 さいかみいせき 賽の神遺跡 りんせつち 隣接地	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 やぎさわだいち 八木沢第5地 わり 割ほか	03202	LG43-1257 LG43-2209	—	—	191101～ 191212 201106～ 201119	141㎡	市道磯鶏金浜 線道路改良工 事に伴う試掘 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
八木沢駒込 Ⅰ遺跡	集落跡	縄文・古代	土坑、遺物包含層		縄文土器・石器		縄文時代前期の遺 物包含層が検出さ れた。	
八木沢駒込 Ⅱ遺跡	散布地	縄文	—		—		—	

宮古市埋蔵文化財調査報告書一覧

- 1 1979 『宮古市大付遺跡発掘調査報告書』
- 2 1980 『宮古市千徳遺跡発掘調査概報』
- 3 1983 『宮古市遺跡分布調査報告書 1』
- 4 1984 『宮古市遺跡分布調査報告書 2』
- 5 1984 『赤前遺跡群第 1 次・第 2 次発掘調査報告書』
- 6 1985 『宮古市遺跡分布調査報告書 3』
- 7 1985 『金浜館跡発掘調査報告書』
- 8 1986 『宮古市遺跡分布調査報告書 4』
- 9 1986 『宮古市遺跡分布図—昭和 60 年度版—』
- 10 1986 『中谷地・島田遺跡調査報告書』
- 11 1987 『崎山貝塚・トロノ木IV遺跡調査報告書』
- 12 1987 『寒風・早稲橋IV遺跡調査報告書』
- 13 1987 『崎山遺跡群 I—昭和 61 年度発掘調査概報—』
- 14 1988 『青猿 I・下在家 II・千徳城遺跡群(堀合館)』
- 15 1988 『崎山遺跡群 II—昭和 62 年度発掘調査概報—』
- 16 1989 『千鶴遺跡—昭和 62 年度発掘調査報告書—』
- 17 1989 『トロノ木 I 遺跡—第 1～7 次発掘調査報告書—』
- 18 1989 『崎山遺跡群 III—昭和 63 年度発掘調査概報—』
- 19 1989 『高根遺跡—昭和 63 年度発掘調査報告書—』
- 20 1989 『狐崎 II 遺跡—昭和 63 年度発掘調査報告書—』
- 21 1989 『崎山トロノ木IV遺跡—昭和 63 年度調査報告書—』
- 22 1990 『狐崎遺跡—平成元年度発掘調査報告書—』
- 23 1990 『崎山遺跡群 IV—平成元年度発掘調査概報—』
- 24 1990 『磯鷲館山遺跡—昭和 63 年度発掘調査報告書—』
- 25 1990 『鎌ヶ崎館山貝塚—平成元年度発掘調査報告書—』
- 26 1991 『青猿 I・千徳城遺跡群—平成 2 年度発掘調査報告書—』
- 27 1991 『青猿 I・千徳城遺跡群—平成元年・2 年度発掘調査報告書—』
- 28 1990 『熊野町遺跡—昭和 63 年度発掘調査報告書—』
- 29 1991 『弘川 I 遺跡—平成 2 年度発掘調査報告書—』
- 30 1992 『金浜 I 遺跡(昭和 58 年度)・大付遺跡(平成 2 年度)発掘調査報告書』
- 31 1992 『重茂館遺跡群—第 1 次調査報告書—』
- 32 1992 『黒森町 I 遺跡—平成 2 年度発掘調査報告書—』
- 33 1992 『高根遺跡—平成 3 年度発掘調査報告書—』
- 34 1992 『鰐沢遺跡群—平成 2 年度発掘調査報告書—』
- 35 1992 『大付遺跡—平成 3 年度発掘調査報告書—』
- 36 1992 『細越 I 遺跡・芋野 II 遺跡—農林課関係田代地区埋蔵文化財発掘調査報告書—』
- 37 1992 『崎山遺跡群 VI—平成 3 年度発掘調査概報—』
- 38 1993 『萩沢 II 遺跡—平成 4 年度発掘調査報告書—』
- 39 1993 『早稲橋 II 遺跡—第 1 次・第 2 次発掘調査報告書—』
- 40 1993 『崎山遺跡群 VII—平成 4 年度発掘調査概報—』
- 41 1994 『崎山遺跡群 VIII—平成 5 年度発掘調査概報—』
- 42 1995 『赤前 I 牛子沢遺跡—平成 4 年度発掘調査報告書—』
- 43 1995 『磯鷲館山遺跡発掘調査報告書』
- 44 1995 『崎山貝塚—範囲確認調査報告書—』
- 45 1995 『笹沢 J・加村・仲組 III・堺ノ神遺跡—市道浦の沢線改良工事関係埋蔵文化財』
- 46 1995 『花原市遺跡—平成 4 年度発掘調査報告書—』
- 47 1995 『宮古市内遺跡発掘調査概報 I 早稲橋 II 遺跡・崎山貝塚』
- 48 1996 『大付遺跡—平成 5 年・6 年度発掘調査報告書—』
- 49 1997 『花原市遺跡—平成 8 年度発掘調査報告書—』
- 50 1997 『白石遺跡—第 6 次発掘調査報告書—』
- 51 1998 『赤畑・天神山・山口館—北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書—』
- 52 1998 『藤畑遺跡—平成 9 年度発掘調査報告書—』
- 53 1999 『赤前 III・赤前 IV 八枚田・赤前 V 柳沢・赤前 VI 釜屋ヶ沢・小堀内 III 遺跡—水産課津軽石環境整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書—』
- 54 1999 『千鶴 IV 遺跡—水産課千鶴地区漁港漁村総合整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書—』
- 55 1999 『崎山貝塚—第 12 次・13 次内容確認調査概報—』
- 56 2000 『木戸井内 II・木戸井内 III・上村 III 遺跡—特別高圧送電線ラサ工業宮古支線新設工事関係埋蔵文化財調査報告書—』
- 57 2002 『山口館跡—北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書—』
- 58 2002 『沢 II 大上遺跡—市内遺跡発掘調査報告書 2—』
- 59 2003 『大又沢 II 遺跡—東北電力宮古ヘリポート移設工事関係発掘調査報告書—』
- 60 2003 『上根井沢 I 遺跡、沼里遺跡—市内遺跡発掘調査報告書 3—』
- 61 2003 『早稲橋 II 遺跡第 6 次調査—市内遺跡発掘調査報告書 4—』
- 62 2003 『下在家 I 遺跡—平成 14 年度発掘調査報告書—』
- 63 2004 『大程 II 遺跡・平浜遺跡—市道閉伊崎線改良工事関係発掘調査報告書—』
- 64 2005 『弘川館跡—瑞雲寺裏庭整備関係発掘調査報告書—』
- 65 2006 『高浜 VI 地神遺跡—高浜四丁目宅地造成工事関係発掘調査報告書—』
- 66 2006 『崎山貝塚第 20 次調査・早稲橋 II 遺跡第 7 次調査—市内遺跡発掘調査報告書 5—』
- 67 2006 『八木沢古館 八木沢中田遺跡 八木沢駒込 I 遺跡—市道岸ノ前ラントノ沢線道路工事関係発掘調査報告書—』
- 68 2006 『木戸井内 IV 遺跡—宮古市生活課市営火葬場整備事業関係発掘調査報告書—』
- 69 2006 『菅ノ沢遺跡発掘調査—市内遺跡発掘調査報告書 6—』
- 70 2007 『山口館跡—市道北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書—』
- 71 2007 『近内館跡—宮古市都市計画課近内地区土地区画整理事業関係発掘調査報告書—』
- 72 2007 『牛沢遺跡・大付遺跡第 11 次調査—市内遺跡発掘調査報告書 7—』
- 73 2007 『弘川館跡第 2 次調査—宗教法人瑞雲寺住宅建築工事地区発掘調査報告書—』
- 74 2008 『荷竹日向 IV 遺跡—市道向川原荷竹線道路工事関係発掘調査報告書—』
- 75 2008 『宮古市遺跡分布調査報告書 5』
- 76 2009 『崎山貝塚 第 IV 期内容確認調査概報(骨角器篇)』
- 77 2010 『宮古市遺跡分布調査報告書 6』
- 78 2011 『宮古市遺跡分布調査報告書 7』
- 79 2012 『重茂館遺跡群—第 2 次発掘調査報告書—』

宮古市埋蔵文化財調査報告書 80

八木沢駒込Ⅰ遺跡・八木沢駒込Ⅱ遺跡

—市道磯鶏金浜線道路改良工事関係発掘調査報告書—

印刷・発行 平成 26 (2014) 3 月

発 行 宮古市教育委員会

〒 028-2101 岩手県宮古市茂市 2 - 112 - 1

TEL 0193 - 68 - 9122

印 刷 花坂印刷工業株式会社

〒 027-0081 岩手県宮古市新川町 1 - 2

TEL 0193 - 62 - 3125

FAX 0193 - 64 - 0212
